

基本計画書

基本計画								
事項	記入欄						備考	
計画の区分	学部の学科の設置							
フリガナ設置者	がっくおかしん かか'けん 学校法人 加計学園							
フリガナ大学の名称	くらしき'い'ぶつ'が'が'が'が' 倉敷芸術科学大学 (Kurashiki University of Science and the Arts)							
大学本部の位置	岡山県倉敷市連島町西之浦2640番地							
大学の目的	本学は、教育基本法及び学校教育法の本旨に則り、芸術と科学に関する学術を深く教育研究し、想像性豊かな人材を養成して、社会の発展に寄与することを目的とする。							
新設学部等の目的	<ul style="list-style-type: none"> ●生命科学部 健康医療学科 西洋医学に基づくスポーツ障害予防、東洋医学に基づく健康維持増進、そしてメンタルケアとしてのリラクゼーション分野を統合して、人間の健康に関する分野に貢献できる人材の育成をするため。 							
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地
	生命科学部 [College of Life Science] 健康医療学科 [Department of Medical Care and Health Science] 計	年	人	年次人	人	学士(健康科学)	平成23年4月 第1年次	岡山県倉敷市連島町西之浦2640番地
同一設置者内における変更状況（定員の移行、名称の変更等）	<ul style="list-style-type: none"> ●倉敷芸術科学大学 <ul style="list-style-type: none"> 産業科学技術学部 <ul style="list-style-type: none"> IT科学科（廃止）（△30） 起業経営学科（廃止）（△30） ※平成23年4月学生募集停止（平成22年5月報告予定） ・平成23年4月、産業科学技術学部 経営情報学科（60）平成22年4月届出済み ・平成23年4月より入学定員を次のとおり変更 <ul style="list-style-type: none"> 生命科学部 健康科学科〔定員減〕 60→55（△5）平成22年6月申請予定 ●岡山理科大学 <ul style="list-style-type: none"> ・平成23年4月より入学定員を次のとおり変更 <ul style="list-style-type: none"> 理学部 応用数学科〔定員増〕 85→95（10） 理学部 化学科〔定員減〕 75→70（△5） 工学部 知能機械工学科〔定員減〕 60→55（△5） 総合情報学部 社会情報学科〔定員増〕 70→80（10） ・平成23年4月、工学部 建築学科（70）設置届出書提出（3年次編入学定員）（5） ・平成23年4月学生募集停止 <ul style="list-style-type: none"> 総合情報学部 <ul style="list-style-type: none"> 建築学科（廃止）（△80）（平成23年6月届出予定） （3年次編入学定員）（△10） ※平成23年4月学生募集停止 （3年次編入学定員は平成25年4月募集停止） ●岡山理科大学大学院 <ul style="list-style-type: none"> ・平成23年4月より入学定員を次のとおり変更 <ul style="list-style-type: none"> 工学研究科 機械システム工学専攻〔定員減〕 14→13（△1） 工学研究科 電子工学専攻〔定員減〕 13→8（△5） 工学研究科 情報工学専攻〔定員減〕 13→10（△3） 工学研究科 知能機械工学専攻〔定員減〕 8→7（△1） 総合情報研究科 情報科学専攻〔定員減〕 7→6（△1） 総合情報研究科 シミュレーション科学専攻〔定員減〕 4→3（△1） 総合情報研究科 生物地球システム専攻〔定員減〕 7→6（△1） 総合情報研究科 社会情報専攻〔定員減〕 7→6（△1） ・平成23年4月、工学研究科 生体医工学専攻（6名）設置届出書提出 工学研究科 建築学専攻（8名）設置届出書提出 							

教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
		講義	演習	実験・実習	計				
	生命科学部 健康医療学科	100科目	14科目	36科目	150科目	124単位			
教員 組織 の 概 要	学部等の名称		専任教員等					兼任 教員等	
	新 設	生命科学部 健康医療学科	教授	准教授	講師	助教	計	助手	人
			人	人	人	人	人	人	人
			3 (5)	0 (0)	2 (2)	1 (2)	6 (9)	0 (0)	50 (50)
		計	3 (5)	0 (0)	2 (2)	1 (2)	6 (9)	0 (0)	50 (50)
	組	芸術学部 美術工芸学科	8 (11)	3 (4)	1 (1)	0 (0)	12 (16)	1 (1)	32 (32)
		芸術学部 メディア映像学科	4 (5)	5 (5)	1 (2)	0 (0)	10 (12)	0 (0)	38 (38)
		芸術学部 デザイン学科	5 (5)	2 (2)	2 (2)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	42 (42)
		計	17 (21)	10 (11)	4 (5)	0 (0)	31 (37)	1 (1)	112 (112)
	既 設 分	産業科学技術学部 経営情報学科	12 (18)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	13 (19)	0 (0)	53 (53)
		産業科学技術学部 観光学科	7 (6)	2 (2)	2 (2)	0 (0)	11 (10)	0 (0)	38 (38)
		計	19 (24)	3 (3)	2 (2)	0 (0)	24 (29)	0 (0)	91 (91)
	概 要	生命科学部 生命科学科	9 (9)	1 (1)	0 (0)	1 (1)	11 (11)	0 (0)	41 (41)
		生命科学部 健康科学科	8 (9)	2 (2)	3 (4)	2 (2)	15 (17)	0 (0)	41 (41)
		生命科学部 生命動物科学科	5 (6)	0 (0)	3 (3)	2 (2)	10 (11)	1 (1)	27 (27)
		生命科学部 生命医科学科	4 (4)	1 (1)	1 (1)	2 (2)	8 (8)	0 (0)	35 (35)
		計	26 (28)	3 (3)	7 (8)	6 (6)	33 (36)	1 (1)	103 (103)
		合計	65 (78)	16 (17)	15 (17)	7 (8)	94 (111)	2 (2)	356 (356)
	教員以外の職員 の概要	職 種		専 任	兼 任	計			
事 務 職 員		56 (56)	2 (2)	58 (58)					
技 術 職 員		2 (2)	0 (0)	2 (2)					
図 書 館 専 門 職 員		1 (1)	6 (6)	7 (7)					
そ の 他 の 職 員		0 (0)	0 (0)	0 (0)					
	計	59 (59)	8 (8)	67 (67)					
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計				
	校 舎 敷 地	133,308.98 m ²	0 m ²	0 m ²	133,308.98 m ²				
	運 動 場 用 地	85,876.00 m ²	0 m ²	0 m ²	85,876.00 m ²				
	小 計	219,184.98 m ²	0 m ²	0 m ²	219,184.98 m ²				
	そ の 他	28,483.00 m ²	0 m ²	0 m ²	28,483.00 m ²				
	合計	247,667.98 m ²	0 m ²	0 m ²	247,667.98 m ²				
校 舎	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計					
	44,259.54 m ² (44,259.54 m ²)	0 m ² (0 m ²)	0 m ² (0 m ²)	44,259.54 m ² (44,259.54 m ²)					
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設				
	32室	28室	93室	10室 (補助職員0人)	1室 (補助職員0人)				
専任教員研究室	新設学部等の名称			室 数					
	生命科学部 健康医療学科			8室					
図書・設備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 種	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点		
	健康医療学科	3,321 [620] (2,910 [620])	610 [230] (590 [230])	0 [0] (0 [0])	100 (100)	242 (242)	30 (30)		
	計	3,321 [620] (2,910 [620])	610 [230] (590 [230])	0 [0] (0 [0])	100 (100)	242 (242)	30 (30)		

平成22年度届出済み

図書館		面積		閲覧座席数		収納可能冊数		大学全体		
		1445.97 m ²		252		113,500				
体育館		面積		体育館以外のスポーツ施設の概要						
		1999.87 m ²		トラック1面、フットサルコート1面 スケートリンク1面、テニスコート7面						
経費の見積り及び維持の概要	経費の見積り	区分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	届出学科全体
		教員1人当り研究費等		教授 1,277千円 准教授 1,140千円 講師 1,140千円	教授 1,277千円 准教授 1,140千円 講師 1,140千円	教授 1,277千円 准教授 1,140千円 講師 1,140千円	教授 1,277千円 准教授 1,140千円 講師 1,140千円	— 千円	— 千円	
		共同研究費等		2,000千円	2,000千円	2,000千円	2,000千円	— 千円	— 千円	
		図書購入費	300千円	200千円	300千円	400千円	400千円	— 千円	— 千円	
		設備購入費	25,000千円	2,000千円	3,000千円	4,000千円	4,000千円	— 千円	— 千円	
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			
	芸術学部	1,820千円	1,600千円	1,600千円	1,600千円	— 千円	— 千円			
	産業科学技術学部									
	経営情報学科	1,298千円	1,078千円	1,078千円	1,078千円	— 千円	— 千円			
	観光学科	1,195千円	975千円	975千円	975千円	— 千円	— 千円			
	生命科学部									
	生命科学科	1,760千円	1,540千円	1,540千円	1,540千円	— 千円	— 千円			
	健康科学科	1,650千円	1,430千円	1,430千円	1,430千円	— 千円	— 千円			
	生命動物科学科	1,535千円	1,565千円	1,565千円	1,565千円	— 千円	— 千円			
	生命医科学科	1,785千円	1,565千円	1,565千円	1,565千円	— 千円	— 千円			
健康医療学科	1,650千円	1,430千円	1,430千円	1,430千円	— 千円	— 千円				
学生納付金以外の維持方法の概要			手数料、私立大学等経常費補助金 等							
大学の名称		倉敷芸術科学大学								
既設大学の状況	既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
	(芸術研究科)	年	人	年次人	人		倍		倉敷市連島町 西之浦2640番地	
	美術専攻修士課程	2	10	—	20	修士(芸術)	0.60	平成11年度		平成17年度より芸術学部工芸・デザイン学科より10名を生命科学部健康科学科へ振替。
	工芸専攻修士課程	2	10	—	20	修士(芸術)	0.05	平成11年度		産業科学技術学部起業学科(通信教育課程)を募集停止。
	芸術研究科修士課程 計						0.52			
	芸術制作表現専攻博士(後期)課程	3	4	—	12	博士(芸術)	0.50	平成13年度		
	芸術研究科博士課程 計						0.50			
	(産業科学技術研究科)									平成18年度より産業科学技術学部コンピュータ情報学科より30名、生命科学科より10名を振替。生命科学部に生命動物科学科を設置し、健康科学科10名増。
	計算機科学専攻修士課程	2	8	—	16	修士(産業科学技術)	0.12	平成11年度		
	機能物質化学専攻修士課程	2	8	—	16	修士(産業科学技術)	1.12	平成11年度		
	産業科学技術研究科修士課程 計						0.62			
	計算機科学専攻博士(後期)課程	3	2	—	6	博士(工学)	0.00	平成13年度		
	機能物質化学専攻博士(後期)課程	3	2	—	6	博士(工学)	0.33	平成13年度		
	産業科学技術研究科修士課程 計						0.16			平成19年度より芸術学部工芸・デザイン学科より10名、起業学科より10名を生命動物科学科に振替。
	(人間文化研究科)									
人間文化専攻修士課程	2	15	—	30	修士(学術)	0.56	平成11年度			
人間文化研究科 計						0.56				
大学院(通信制)(芸術研究科)									平成20年度より芸術学部美術学科、工芸・デザイン学科を募集停止し、芸術学部美術工芸学科、デザイン学科を設置。	
美術専攻(通信制)修士課程	2	10	—	20	修士(芸術)	0.20	平成14年度			
芸術研究科 計						0.20			産業科学技術部に観光学科を設置。コンピュータ情報学科は、IT科学科に名称変更。起業学科は、起業経営学科に名称変更。	
(産業科学技術研究科)										
機能物質化学専攻(通信制)修士課程	2	20	—	40	修士(産業科学技術)	0.02	平成14年度			
産業科学技術研究科 計						0.02				
(人間文化研究科)										
人間文化専攻(通信制)修士課程	2	30	—	60	修士(学術)	0.11	平成14年度			
人間文化研究科 計						0.11				

大学等の名称	千葉科学大学							所在地	備考	
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率			開設年度
既設大学等の状況	大学院 (薬科学研究科)								千葉県銚子市潮見町3番地	<ul style="list-style-type: none"> ・薬学部薬学科(4年制課程)は平成16年度に開設したが、改組により薬学科(6年制課程)へ平成18年度に移行した。 ・平成16年度薬学部薬学科(4年制課程)入学定員200名、編入学2年次5名405名(平成17年度まで)→平成18年度は薬学部薬学科(6年制課程)入学定員120名、編入学4年次5名(平成18年度) ・平成19年度より入学定員・編入学定員を変更した。(純増) 薬学部薬学科(6年制)入学定員120名→200名(+80) 編入学定員4年次10名(+5) 薬学部薬科学科20名→50名(+30) ・平成20年度より大学院薬科学研究科薬科学専攻及び危機管理学研究科危機管理学専攻を設置。 ・平成20年度より薬学部動物生命薬科学科を設置。 ・平成20年度より入学定員を変更した。薬学部薬学科(6年制)入学定員200名→180名(△20) 薬学部薬科学科入学定員50名→40名(△10) 危機管理学部防災システム学科入学定員70名→50名(△20) 危機管理学部環境安全システム学科入学定員70名→90名(+20) ・平成21年度に危機管理学部を改組し、より入学定員を変更した。薬学部薬学科(6年制)入学定員200名→180名(△20) 薬学部薬科学科入学定員50名→40名(△10) 危機管理学部防災システム学科入学定員70名→50名(△20) 危機管理学部環境安全システム学科入学定員70名→90名(+20)
	薬科学専攻修士課程	2	—	—	—	修士(薬科学)	—	平成20年度		
	薬科学専攻修士課程	2	10	—	20	修士(薬科学)	0.80	平成22年度		
	薬科学専攻博士課程(後期)	3	5	—	15	博士(薬科学)	0.60	平成22年度		
	(危機管理学研究科)									
	危機管理学専攻修士課程	2	5	—	10	修士(危機管理学)	1.87	平成20年度		
	危機管理学専攻博士課程(後期)	3	3	—	9	博士(危機管理学)	0.33	平成22年度		
	(薬学部)			4年次				(平成16年度)		
	薬学科	6	120	10	735	学士(薬学)	0.74	平成18年度		
	薬科学科	4	—	—	—	学士(薬科学)	—	平成18年度		
	動物生命薬科学科	4	—	—	—	学士(動物生命薬科学)	—	平成20年度		
	生命薬科学科	4	50	—	50	学士(生命薬科学)	0.70	平成22年度		
	(危機管理学部)			3年次						
	防災システム学科	4	—	5	—	学士(危機管理)	—	平成16年度		
	環境安全システム学科	4	—	5	—	学士(危機管理)	—	平成16年度		
	危機管理システム学科	4	100	5	315	学士(危機管理)	0.97	平成16年度		
	動物・環境システム学科	4	60	5	120	学士(危機管理)	0.78	平成21年度		
	医療危機管理学科	4	80	5	180	学士(危機管理)	0.95	平成21年度		
	航空・輸送安全学科	4	40	5	40	学士(危機管理)	0.45	平成22年度		
	留学生別科	4	40		40		0.98	平成22年度		

既設大学等の状況										<ul style="list-style-type: none"> ・危機管理学部防災システム学科及び同学部環境安全システム学科を平成21年度より学生募集停止し、同学部動物・環境システム学科及び同学部医療危機管理学科を設置。 ・平成21年度より入学定員を変更した。薬学部薬学科（6年制）入学定員180名→150名（△30）危機管理学部危機管理システム学科入学定員70名→95名（+25） ・薬学部薬科学科及び同学部動物生命薬科学科を平成22年度より学生募集停止し、同学部生命薬科学科を設置。 ・平成22年度より危機管理学部航空・輸送安全学科を設置。 ・平成22年度より入学定員を変更した。薬学部薬学科（6年制）入学定員150名→120名（△30）危機管理学部危機管理システム学科 入学定員95名→100名（+5）危機管理学部医療危機管理学科入学定員100名→80名（△20） ・旧4年制薬学科教育を基礎とした薬科学専攻修士課程を平成22年度より学生募集停止し、新4年制薬学教育を基礎とした薬科学専攻修士課程を設置。
	附属施設の概要									

(注)

- 1 共同学科等の認可の申請及び届出の場合、「計画の区分」、「新設学部等の目的」、「新設学部等の概要」、「教育課程」及び「教員組織の概要」の「新設分」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 2 「教員組織の概要」の「既設分」については、共同学科等に係る数を除いたものとする。
- 3 私立の大学又は高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」及び「体育館」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 4 大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「校地等」、「校舎」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」、「体育館」及び「経費の見積もり及び維持方法の概要」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 5 「教育課程」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 6 空欄には、「－」又は「該当なし」と記入すること。

教 育 課 程 等 の 概 要

(生命科学部健康医療学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
教 養 科 目	哲学	1・2・3・4		2		○									兼1
	文学	1・2・3・4		2		○									兼1
	歴史学	1・2・3・4		2		○									兼2
	日本語表現	1・2・3・4		2		○									兼1
	宗教学	1・2・3・4		2		○									兼1
	社会と言語	1・2・3・4		2		○									兼1
	心理学	1・2・3・4		2		○									兼1
	政治学	1・2・3・4		2		○									兼1
	環境と社会	1・2・3・4		2		○									兼1
	日本国憲法	1・2・3・4		2		○									兼1
	法学	1・2・3・4		2		○									兼1
	経済学	1・2・3・4		2		○									兼1
	物理学	1・2・3・4		2		○									兼2
	化学	1・2・3・4		2		○				1					
	人間と環境	1・2・3・4		2		○				1					
	地球科学	1・2・3・4		2		○									兼2
	数学	1・2・3・4		2		○									兼2
	世界と日本	1・2・3・4		2		○									兼1
	アジアの政治文化	1・2・3・4		2		○									兼1
	マスコミ論	1・2・3・4		2		○									兼1
	文章表現法	1・2・3・4		2		○									兼1
	人間の発達と形成	1・2・3・4		2		○									兼1
	日本の伝統芸能	1・2・3・4		2		○									兼1
	芸術と科学の協調	2後		2		○									兼3
	人生と仕事Ⅰ	1前		2		○									兼1
	人生と仕事Ⅱ	2前		2		○									兼1
	キャリア・ラーニング	3前		2		○									兼1
	キャリア・チャレンジⅠ	2前		1								○			兼1
	キャリア・チャレンジⅡ	2後		1								○			兼1
	基本数学	1前		2		○									兼1
	基本英語	1前		2		○									兼1
	基本化学	1前		2		○									兼1
	基本物理	1前		2		○									兼1
	倉敷まちづくり基礎論	1後		2		○									兼2
	倉敷まちづくり実践論	1後		2		○									兼2
	まちづくりインターンシップ	2前		2								○			兼1
	英語Ⅰ	1前		2					○						兼5
	英語Ⅱ	1後		2					○						兼5
	中国語Ⅰ	1前		2					○						兼1
	中国語Ⅱ	1後		2					○						兼1
	英会話Ⅰ	2前		2					○						兼3
	英会話Ⅱ	2後		2					○						兼3
	ドイツ語Ⅰ	1前		2					○						兼1
	ドイツ語Ⅱ	1後		2					○						兼1
	日本語Ⅰ	1前		2					○						兼2
	日本語Ⅱ	1後		2					○						兼2
日本語会話Ⅰ	1前		2					○						兼2	
日本語会話Ⅱ	1後		2					○						兼2	
日本語理解Ⅰ	1前		2					○						兼2	
日本語理解Ⅱ	1後		2					○						兼2	
保健体育概論	1後			2		○					1			兼3	
保健体育実技Ⅰ	1前			1							1			兼3	
保健体育実技Ⅱ	1後			1							1			兼3	
小計(53科目)		—	16	86	0	—	—	—	2	0	1	0	0	兼46	

日本人学
生対象

外国人留
学生対象

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
共通専門科目	生理学	1前		2		○			1							
	生理学実習	1後		1				○				1				兼1
	機能的解剖学	1前		2		○										兼1
	解剖学実習	1後		1				○				1				
	生化学	1前		2		○			1							
	健康管理概論	1後		2		○			1							
	衛生学・公衆衛生学	1前		2		○										兼1
	健康科学	2後		2		○			1							兼1
	メンタルヘルス	3前		2		○										兼1
	バイオサイエンス	1後		2		○			1							
	一般救急救命	3後		2		○										兼1
	栄養学概論	2前		2		○			1							
	環境リスク論	2後		2		○										兼1
	関係法規	3前		2		○						1				
	運動生理学	2前		2		○										兼1
	内科学Ⅰ(総論)	2前		2		○			1							
外科学Ⅰ(総論)	3前		2		○										兼1	
小計(17科目)	—		0	32	0	—			4	0	0	2	0			兼6
専門科目	経絡経穴概論Ⅰ	1前		2		○						1				
	経絡経穴概論Ⅱ	1後		2		○						1				
	基礎経穴	2前		2		○						1				
	東洋医学総論Ⅰ	1前		2		○					1					
	東洋医学総論Ⅱ	1後		2		○					1					
	基礎はりきゅう理論	1前		2		○					1					
	応用はりきゅう理論	3前		2		○			1							
	東洋医学各論Ⅰ	2前		2		○					1					
	東洋医学各論Ⅱ	2後		2		○					1					
	東洋医学各論Ⅲ	3前		2		○			1							
	レディース鍼灸学	2前		2		○			1							
	スポーツ鍼灸学	2後		2		○										兼1
	社会はりきゅう学	2後		2		○					1					
	基礎はり実技	1通		2		○						1				
	基礎きゅう実技	1通		2		○						1		1		
	鍼灸臨床実習Ⅰ	2通		2		○							1			
	鍼灸臨床実習Ⅱ	2通		2		○						1				
	鍼灸臨床実習Ⅲ	4通		2		○			1							兼1
	鍼灸臨床実習Ⅳ	4通		2		○										
	鍼灸診察法Ⅰ	2通		2		○							1			
	鍼灸診察法Ⅱ	3通		2		○			1							
	鍼灸治療所実習Ⅰ	3通		2		○			1		1		1			
	鍼灸治療所実習Ⅱ	3通		2		○			1		1		1			
	学外関連施設見学実習	3後		1		○			1		1		1			集中講義
	ウェイトコントロール論	3前		2		○			1				1			兼2
	健康食品学	3後		2		○										兼1
	セラピー論	3前		2		○										兼1
	リラクゼーション論	3後		2		○										兼1
	ボディークア	2前		2		○			2				1			オムニバス
	ボディークア実習	2後		2					2				1			オムニバス
	アロマセラピー	3後		2		○										兼1
	ヒーリング実習	1前		2												兼1
	中医栄養学	3前		2		○			1							
	中医栄養学実習	3後		2												兼1
漢方学	2後		2		○										兼1	
香粧品科学	1後		2		○										兼1	
植物機能学	3前		2		○			1								
植物成分分析実験	3後		2					1								
栽培学	3前		2		○			1								
栽培学実習	3通		2					1								
病理学	2前		2		○										兼1	
脳外科学	3後		2		○										兼1	
生活習慣病予防	2前		2		○			2							オムニバス	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目	スポーツ医学Ⅰ	2前		2		○									兼1
	スポーツ医学Ⅱ	3前		2		○									兼1
	スポーツ医学Ⅲ	3後		2		○									兼1
	スポーツ社会学	4後		2		○									兼1
	スポーツ指導論Ⅰ	4前		2		○									兼1
	スポーツ指導論Ⅱ	4後		2		○									兼1
	スポーツトレーニング理論	2前		2		○						1			
	スポーツ指導者基礎	1後		2		○						1			
	アスレティックトレーナー概論	1前		2		○									兼1
	スポーツ心理学	4前		2		○									兼1
	体表解剖学	1後		2		○									兼1
	運動負荷試験(実習含む)	2後		2		○									兼1
	テーピング理論(実習含む)	3前		2		○									兼1
	スポーツコンディショニング理論	2後		2		○									兼1
	アスレティックリハビリテーション理論	3後		2		○									兼1
	アスレティックリハビリテーション実習	2後		2					○						兼1
	アスレティックトレーナー実習Ⅰ	4前		2					○						兼2
	アスレティックトレーナー実習Ⅱ	4前		2					○						兼2
	アスレティックトレーナー実習Ⅲ	4後		2					○						兼2
	トレーニング科学	3前		2		○									兼1
	バイオメカニクス	4前		2		○									兼1
	体力測定法(実習含む)	3前		2		○									兼1
	ストレッチング理論(実習含む)	3前		2		○									兼1
	スポーツ障害論	2後		2		○									兼1
	栄養指導論	3後		2		○				1					
	スポーツ栄養学	3後		2		○				1					
小計(69科目)	—		0	138	0	—			5	0	1	2	0	兼16	
専門関連科目	体育原理	2前		2		○								兼1	
	スポーツ実習Ⅰ(陸上)	1前		2				○						兼1	
	スポーツ実習Ⅱ(水泳)	1後		2				○						兼1	
	スポーツ実習Ⅲ(球技)	2前		2				○						兼1	
	スポーツ実習Ⅳ(武道)	2後		2				○						兼1	
	スポーツ実習Ⅴ(テニス)	3前		2				○			1				
	スポーツ実習Ⅵ(体操)	3後		2				○						兼1	
	ウィンタースポーツ実習	1後		2				○						兼1	
フィールドワーク	2前		2				○	2					兼2		
コンピュータリテラシ	1前		2		○								兼1		
小計(10科目)	—		0	20	0				2	0	0	0	0	兼8	
卒業研究	4通		6					○	5		2				
合計(149科目)	—		16	266	0	—			5	0	2	2	0	兼63	
学位又は称号	学士(健康科学)			学位又は学科の分野			理学関係、体育関係、保健衛生学関係								
卒業要件及び履修方法							授業期間等								
教養科目を20単位以上、専攻科目を90単位以上、合計で124単位以上を修得するものとする。 (履修科目の登録の上限: 48単位(年間))							1学年の学期区分		2			期			
							1学期の授業期間		15			週			
							1時限の授業時間		90			分			

授 業 科 目 の 概 要			
(生命科学部健康医療学科)			
科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教 養 科 目	哲学	哲学的に思索するとはどういうことを学ぶにあたって、まず正しく考えることから始めなければならない。そのためには、論理的に誤りのない正しい判断が求められる。本講義では、正しい論理を展開していくにあたっての基本的知識を学び、さらには哲学の根本的諸問題にも触れていく。	
	文学	近世から現代まで日本文学に大きな影響を与えている中国白話小説に『水滸伝』があるが、この作品をいろいろな角度から分析し、テーマごとに毎回完結する形(第13、14回は2回で完結)で講義を進める。文学作品を読む上で、自分で作品を分析して読む1つの目安を持つと、1つの作品の楽しみ方が見えてくるはずである。	
	歴史学	絵文字ヒエログリフが示しているように、古代エジプト美術は、文化を伝える言語といえる。言い換えればエジプト美術は、これを創造した古代人の心の具象表現なのである。エジプト美術史の流れをたどりつつ、当時の人々の思考方法を支えた宗教を解明する。今期は、エジプト文化誕生前後の先王朝時代から王墓ピラミッドが盛んに建造された古王国時代末までの葬祭建築を中心に、古代エジプト人の死生観を明らかにする。	
	日本語表現	「ら抜きことば」やことばの省略、新奇な造語の多用、従来とは異なる敬語の使用、共通語と方言の混用や世代間差等、現代のことばにみられる事象を「乱れ」ととらえるか「変化」ととらえるかは立場や考え方によって様々だが、それらの事象について客観的に考えるためには、まず日本語の仕組みと特徴を知る必要がある。本講義では、日本語の仕組みと特徴をふまえた上で、日本語にどのような変化が起きているのかを知り、的確な日本語を使用するために、どのような表現を選択すればよいか考えていく。	
	宗教学	世界中で多発する民族紛争やテロ事件の大半は、宗教が深く関わっている。このような問題に限らず、世界の情勢を理解する上で、宗教の知識が不可欠であることはいままでもない。にもかかわらず、世界的にみて日本人は宗教について無知、無関心であるといわれている。本講義では、宗教の基礎的な知識を学ぶことによって、宗教のあるべき姿を模索したい。	
	社会と言語	我々の日常生活には様々なことばが関わっており、我々の生活から「ことば」を切り離すことはできない。本講義では、社会と人をつなぐものとして「ことば」をとらえ、様々な言語表現を文化・生活等の社会的側面から説明していく。また、辞書や文法書には書かれていない、言語・非言語コミュニケーションの定義や特徴について論じ、我々が日常的に発・受信する様々なメッセージを例に、コミュニケーションの特徴や規則について考えていく。	
	心理学	多くの人が、素朴な心理学と言われる、一見正しそうで、実際には誤った人間理解につながりかねない認識を抱いている。人間の行動を理解するには、さまざまな心のしくみとその働きを科学的視点から知ることが必要になってくる。行動を規定するものは何か、それがどのような状況でどのように働くのかを学習する。	
	政治学	政治学を研究・理解する上で必要となる基礎的知識を持てるよう講義する。取り上げるテーマは、権力、支配、政治システム、国家、政府、官僚制、選挙、政党、民主政治、ナショナリズム、権威主義体制、ポリアーキーなどであるが、そのいずれも政治を理解する上での基礎的なものばかりである。また、近年のグローバル化の進展に伴って政治を単に国内政治のみに限定して理解することは不可能な状況にあるため、本講義では国内政治と連繋する国際政治の枠組みも紹介しつつ、政治の全体像を学ぶのが目的である。	
	環境と社会	日本の公害経験と政策対応、中国の公害・環境破壊の実態と政府の対応および環境政策理論について学ぶ。講義を通して、環境問題の重要性を認識し、日々の生活の中で、問題への対応意識を向上させることを目標とする。	
	日本国憲法	現行憲法の前身である大日本帝国憲法と現行の日本国憲法を比較し、両者の違いを明らかにすることによって、日本国憲法の特徴を浮き彫りにしたい。さらに、日本国憲法の理念と現実との間のギャップにも目を向け、日本国憲法の今日的課題についても考察していきたい。将来、憲法改正問題に直面したときに、何がわが国の憲法として必要なのかを、自分で判断できるような憲法観を養うことが目標である。	
	法学	法学の主な目的は、法の基本的な仕組みを知ってもらうことにある。参審制の意義や、プライバシー権と個人情報の流布の問題、家族関係の変化と婚姻観の国際的比較など、現代的テーマを中心に講義する。	
	経済学	本講義では、現在の資本主義社会の下で健全な市民として義務を履行し、権利を享受するために必要な社会の構造に対する知識を養う。経済学の基礎知識を習得させることを目標とする。	
物理学	この講義では教養の物理学として「力学」の分野の初歩を学習します。できるだけ身近な例を取り入れて、「わかりやすく」を目標に講義を進めます。各時間ごとの講義内容に関連した演習プリントを使い、わかりやすく解説しながら学習を進めていきます。		

科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教 養 科 目	化学	私たちの身の回りには物が溢れている。これら衣食住をはじめ、生物・鉱物・機器・医薬品など、我々人間も含めた地球上のありとあらゆるものが化学そのものであると言っても過言ではない。化学は総ての物質の基礎であると同時に、我々が文明生活を送る上で必要不可欠なものである。今この化学をどのようにして人類そして地球上の全ての生物のために役立てるかが問われている。そのような観点から、化学の基礎的な知識を学び、そこから実生活に密着した化学を紹介し解説する。ビデオを利用した目で見る知識、新聞・雑誌の記事などからの最新ニュースなどについても紹介し考える。自ら疑問を持ち、考え、工夫し、纏める能力を培ってもらおう。	
	人間と環境	人間の生存環境保全に関わることは、自ら環境を凝視することである。そして、人間と自然と技術の調和を真剣に考え続けることである。今日、人間生活を脅かしている地球環境の変化は、人間の生活を便利にさせた技術開発の結果に由来するといつて過言ではない。農業の持つ公益的機能を中心に、人間と自然の結びつきを考えさせる。	
	地球科学	地球の誕生から、その後の約46億年の間に地球環境が自然のシステムの中でどのように変化してきたかを理解することによって、現在の人間活動による急激な環境変化を再考する機会とする。また、地球科学的事件によって、生物や人間生活にどのような影響が及んだかを説明すると共に、私たちの身近な環境問題の現状と保全方法についても取り上げる。	
	数学	教養としての数学の講義を行う。数学が単に計算だけでなく、本質的なものの抽出の方法や推論・論理展開を考察する科目でもあることを、身近にある実例を通して学ぶ。数学の諸分野からトピックスを選んだが、特に視覚にも訴えるものを選んだつもりである。背景に使われている数学がどのようなものかについて考察していく。講義は理論展開だけでなく、折り紙を折るなどの実験をたびたび行いながら体験的に進めていきたい。	
	世界と日本	日本は資源が乏しいため多くのものを世界に依存している。そのためいろいろな分野で世界的視点に立ったものの考え方ができる人が求められている。この講義では、世界をどのようにとらえるかについて考察する。具体的には、世界の主要な組織、日本の組織、例として特定地域や国と日本の関係等、また、今日的な問題等をどうとらえるべきかについて考察していく。	
	アジアの政治文化	国際関係で指摘される世界におけるアジアの文化の特徴の一つは、多様な文化の共棲ということである。そうした多様な文化にもとづいて実施されている政治制度としての民主主義も、一言では説明できないほどの多様性を示している。そこで、本講義では、こうしたアジアの政治と文化をその「多様性」に着目しつつ、現代アジアの形成過程の視点から理解することをめざすものであるが、その際、アジアの人々の価値観をたどることになるが、この点に留意しつつ、周辺地域（ヨーロッパ、アメリカ、ロシアなど）との接触・融合・反発という交流過程も取り上げ、受講者が将来のアジアの政治と文化の行く末を理解することを目的とする。	
	マスコミ論	マスコミ（マスメディア）は、私たちの暮らしとかがわりが深い。今や、国家、社会、組織、大衆にマスコミの影響は、実に巨大である。このマスコミの歴史、組織、現状、理念、方向性を現実の具体例を提示しながら、その本質を正確に把握出来る様に講義する。	
	文章表現法	情報化社会では、正確な分かりやすい文章を書くことと論理的に書くことが要求される。しかし、正確に事実を伝える文章を書くことは、これまで疎かにされてきたようである。ある絵を見て、その絵がどのような絵であるかを伝えるという課題を小・中学生に行ったところ、絵の持つ情報量の3割しか伝えられなかったという結果がある。経験や勘に頼るのではなく、目標を明確にした系統だった練習によって文章力を身につけるための方法を講義する。	
	人間の発達と形成	現代社会は情報化、コンピュータ化が急速に進み、人間について顧みる機会が減っています。そこで、講義では人間の成長・発展、あるいは形成を、教育（生涯学習）の観点から捉え、最終的には成人した大人が学習するそのあり方について概説する。同時に、社会で生じている関連あるトピックを随時取りあげ、討論し、考える力を養いたい。	
	芸術と科学の協調	芸術と科学の協調という本学の設立理念を具体的に認識するために、各学部の専門領域の研究成果の実例を挙げて概説する。歴史的にも芸術の変遷と科学の発展が互いに深い関係を持つことの知識の習得、また、現在に於ける芸術分野と科学の分野の共同による研究動向に対する関心を高め、さらに、将来に向けて、幅広い視点を獲得するために導入的講義を行う。	
	日本の伝統芸能	日本の伝統芸能の一つである日本舞踊をとりあげ、成り立ちと歴史、隣接領域（歌舞伎・能・狂言・文楽等）との関連性、基本的技法と表現、舞踊音楽、創作、鑑賞、および作品に関する内容を理解させるとともに、一部の実技指導を通して、日本舞踊にみられる日本人の礼儀と作法を学ばせる。	
	人生と仕事Ⅰ	当講義は、受講者に就職への適切な意識を早期に持たせることを目的とする。まず初めに、「人が生きるとはどういうことなのか」を考えさせ、次に「働くとはどういうことを意味するのか、何のために働くのか」を考えさせる。その上で「人生と仕事はいったいどう結びついているのか」について考えさせかつ学ばせる。	
人生と仕事Ⅱ	「人生と仕事Ⅰ」で就職への意識をもった上で、将来の仕事、職種を考え、その準備内容を知り、その業界の知識をも得る。「どんな仕事をしたいのか」「何を準備すべきか」「業界の様子はどうか」「自己実現への方法」等をしっかり考える。併せて、就職活動に必要な自己表現力や社会人としてのマナー等を身につける。総じて「社会人基礎力」を身につけるべく努める。		

科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養科目	キャリア・ラーニング	最近の就職選考においては、第一に筆記試験を課し、この試験を通過した少数の者に対してきめ細やかな面接を行うのが普通である。この筆記試験をパスするのが、最初の関門なのである。最近の就職試験は、SPIと呼ばれる形式の試験が中心である。この試験は、半数が言語能力検査(数学)で残りの半数が言語能力検査(国語)である。数学の内容は、方程式の文章題などであるが、1題を1分弱ぐらいの時間で解かなくてはならないため、合格点に達することは想像する以上に難しい。早い時点から十分な時間をかけて準備しておく必要なのである。当講義は、自ら筆記試験対策の勉強を始めるきっかけを与えることをねらいとするものである。社会人への条件である社会常識と日常に必要な学問的知識を得ることを目標とする。	
	キャリア・チャレンジⅠ	自立的かつ挑戦的プログラムとして、受講生が主体的に取り組む科目である。各プロジェクトで、学内外の人々の指導を受けながら「職務体験」を行い、働くことの意味・意義を実感し、将来の職業を含めた人生設計(キャリア・デザイン)に役立ててもらいたい。何事にも失敗を恐れず、チャレンジする姿勢や態度が求められる。	
	キャリア・チャレンジⅡ	自立的かつ挑戦的プログラムとして、受講生が主体的に取り組む科目である。各プロジェクトで、学内外の人々の指導を受けながら「職務体験」を行い、働くことの意味・意義を実感し、将来の職業を含めた人生設計(キャリア・デザイン)に役立ててもらいたい。何事にも失敗を恐れず、チャレンジする姿勢や態度が求められる。	
	基礎数学	数学に関する基礎知識を復習し、演習問題を解くことにより、次の段階の数学へスムーズに進んでいけるようにします。多くの演習問題の解説やそれを自力で解けるようになるまで、ゆっくりと丁寧に指導し、解らないところは、質問するなどして、受け身の授業ではなく、教員と受講生との活発なやりとりがあるような講義を行う。	
	基礎英語	意思伝達の手段である英語をよりよく理解するためには「読む」「書く」「話す」「聞く」の4技能をささえるところのこの4つの骨格である文法を十分身に付けることが肝要である。このことによって大学での英語の発展的な展開が可能となる。ここでは出来る限り多様な英文に接し、自然と英語が身近なものとなるように授業を展開していく。	
	基礎化学	「化学」をする喜びは、自然現象に興味を持つことが大切だといわれますが単に興味を持つことは困難なことです。不思議な現象が起これば、だれもが「どうして?」と疑問を持つものです。しかし、それを発展させるには、「基本的な事項」を身につけることが涵養です。また、身につけていないと先には進めず興味もさめてしまいます。そこで、この講義では、化学の基本を押さえ、考え方の手順を知り、「化学の興味」を追求するために開講するものです。ゆっくりと気楽に話し合いながら「身につく化学」を展開したいと考えています。	
	基礎物理	この講義では、「力学」の分野に絞って、その基本的な内容が理解できるようにゆっくりと時間をかけて学習します。また、多くの演習問題に取り組むことによって知識を確実に身につけてもらいたいと考えています。各時間ごとの講義内容に関連した演習プリントを使い、わかりやすく解説しながら学習を進めていきます。	
	倉敷まちづくり基礎論	学生自身のキャリア形成力や社会人基礎力を高めるとともに、「学生の元気がまちを元気にする」をコンセプトにした地域の活性化も目的としている。なお、科目の開設と運営は、産官学の連携協力(特に倉敷市)を得て、戦略的産官学連携事業「岡山オルガノンの構築」の単位互換科目として位置づけられるものである。授業は、双方向ライブ遠隔授業の形態が中心となり、共同学習、共同討議、プレゼンテーションなど学生参加型のスタイルも採り入れる。	
	倉敷まちづくり実践論	学生自身のキャリア形成力や社会人基礎力を高めるとともに、「学生の元気がまちを元気にする」をコンセプトにした地域の活性化も目的としている。なお、科目の開設と運営は、産官学の連携協力(特に倉敷市)を得て、戦略的産官学連携事業「岡山オルガノンの構築」の単位互換科目として位置づけられるものである。授業は、双方向ライブ遠隔授業を活用して、実践的なグループワークと体験活動を行う。	
	まちづくりインターンシップ	学生自身のキャリア形成力や社会人基礎力を高めるとともに、「学生の元気がまちを元気にする」をコンセプトにした地域の活性化も目的としている。なお、科目の開設と運営は、産官学の連携協力(特に倉敷市)を得て、戦略的産官学連携事業「岡山オルガノンの構築」の単位互換科目として位置づけられるものである。授業は、双方向ライブ遠隔授業を活用した事前指導の後、中心市街地の商店街において2週間程度(90時間)のインターンシップを行う。接客等の職務体験を通じて、地域における問題に直面し、活性化の方策を探り、その成果をまとめて報告するという一連の学習に取り組む。	
	英語Ⅰ	英語の基礎力、特に読解力の充実を目的とする。将来専門書講読の学力を養うために、様々な分野の英文に触れるよう努める。重要表現は毎時の小テストで定着を計る。	
	英語Ⅱ	英語Ⅰで養った読解力をさらに高め、将来専門書講読の学力を養うために、より踏み込んで多様な分野の英文に触れるよう努める。重要表現は毎時の小テストで定着を計る。	
	中国語Ⅰ	前期は中国語の発音、簡単な構文を覚え、簡単な会話ができることを目標とする。日本人の中国語学習者の難点に合わせた発音も表現のパターンも考慮した講義内容の配置で、学生が自ら練習できるように、本文以外に会話文と練習問題を設けているので、学生主体の授業を導入し、先生と学生が練習を通じて自然に身につけることができるようにしたい。	
	中国語Ⅱ	発音を覚えた後、前期の基礎表現よりやや長い構文を覚え、身の回りの物事や身近な表現ができるようにする。練習を通じて、自己紹介、家族の紹介や作文、物の所在を各自ができるようにしたい。また同じ内容を口頭でも表現できるようにしたい。	

科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教 養 科 目	英会話 I	英語によるコミュニケーション能力を習得することにより、第1言語の使用も見つめ直してみたい。話しかけ方や、断り、謝りという身近な場면을題材として、会話の基本を学ぶ。海外旅行をはじめとして、これから遭遇するだろう英語での会話の場面に慣れるための、基礎的能力を身につけることを目標とする。	
	英会話 II	視聴覚機器を利用し、英会話における基本的な表現を身につけることを目標とする。海外での生活に役立つ日常表現から、自らの意見を述べる方法まで、英語で積極的にコミュニケーションが図れるよう指導する。ペアやリポートでの会話練習に加え、英語でのゲームの実施や教室を歩きさまざまなクラスメイトや教員にするインタビューなどを通して、くつろいだ雰囲気の中で頭で日本語を英語に置き換えるのではなく、英語が口について出ることをめざす。	
	ドイツ語 I	本講義では、そんなドイツ語をまず声に出して読めるようになることを最初の目標としつつ、少し変わった視点からの考察も交えて、ドイツ語の日常表現と基礎的な言語構造を学び、ドイツ語圏文化の理解を深め、習得して頂くことを目的としています。主教材には、平易なDialogと文法解説で構成されたCD添付の初級文法読本を、副教材には、各種ワードクイズのプリントを用います。加えて、前期はサッカーW杯を素材にしたものを用意し、ドイツ映画も鑑賞する予定です。	
	ドイツ語 II	本講義では、ドイツ語の発音と、基礎的な文法事項を復習した上で、前置詞や助動詞を用いた表現と、接続詞を含んだ従属文(副文)構造を学び、実際のドイツ語素材に触れていきます。DBの時刻表を読み解いたり、レストラン・メニューを吟味したり(実際にドイツ料理を食べてみましょう)、ある程度シチュエーションを限定した中で、有用で平易なドイツ語表現とドイツ語圏の文化を気軽に学んで下さい。	
	日本語 I	「文法」を理解し、その応用まで習得・定着することを目標とする。また、場面に応じた日常会話のリスニング能力や会話力を向上させ、ニュースなどの情報を正しく聞き取る力を養う。中級から中上級への移行のために、作文や読解を通して、文型の整理・確認をする。新聞、雑誌、コラム、ニュース解説などの生教材を使用し、日本事情、日本社会の仕組みや日本人の考え方、生活習慣、かつ世界事情、世界各国の生活習慣などに関心を持ち、理解を深めることを目指す。	
	日本語 II	日本語 Iの講義に続き、「文法」を理解し、その応用まで習得・定着することを目標とする。また、日常生活に必要な会話から、報告、説明、スピーチ、さらには、質問や討論のできる力を養う。卒業論文作成に向けて、文章を正しく理解する読解力を身につけ、要約文、説明文、レポート、感想文など、ある程度まとまった文章が書ける力を養う。新聞、雑誌、コラム、ニュース解説などの生教材を使用し、日本事情、日本社会の仕組みや日本人の考え方、生活習慣、かつ世界事情、世界各国の生活習慣などに関心を持ち、理解を深めることを目指す。	
	日本語会話 I	文法・語彙を用い、日本での大学生生活、社会生活に必要な口頭表現や技術を学ぶ授業である。日本語らしい発音を習得するために、アクセント・イントネーション・リズムの練習をする。また、語彙を増やし、身近な場面での日本語会話を練習し、日本での生活に必要なコミュニケーション能力を身につける。	
	日本語会話 II	文法・語彙を用い、日本での大学生生活、社会生活に必要な口頭表現や技術を学ぶ授業である。日本語会話 Iに引き続き、日本語らしい発音を習得するために、アクセント・イントネーション・リズムの練習をする。また、語彙を増やし、身近な場面での日本語会話を練習し、日本での生活に必要なコミュニケーション能力を身につける。	
	日本語理解 I	本講義は、日本語における大学の授業の理解、大学生生活、社会生活に必要な日本語の知識・運用能力を身につけるための授業である。読む・書く・聞く・話すという4技能を総合的に伸ばすために、さまざまな言語活動を行う。	
	日本語理解 II	本講義は、日本語における大学の授業の理解、大学生生活、社会生活に必要な日本語の知識・運用能力を身につけるための授業である。日本語理解 Iに引き続き、読む・書く・聞く・話すという4技能を総合的に伸ばすために、さまざまな言語活動を行う。	
	保健体育概論	「適切な運動の実施・適切な栄養の摂取・十分な休養(睡眠)」は健康の基本です。本講義では、私たち人間が基礎的な知識として最低限度理解しておかなくてはならない、健康的な生活への位置づけと健康の必要性について論述します。私たちの日常生活を取り巻く運動・栄養・休養(睡眠)、喫煙・飲酒等、様々な健康行動について最新のトピックスを取り上げ、生涯にわたって健康的な生活を送っていくための実践的な足掛かりとなるよう一緒に考えていきましょう。生涯の各段階で直面する様々な健康問題やそれに対する適切な行動について理解し、健康的な生活を送るための実践力を身に付けることを目標とします。	
	保健体育実技 I	明るく充実した質の高い人生を送るためには何が必要なのでしょう。か?本授業では、生涯にわたって健康で活力のある生活を獲得するために、「健康づくり」の理論的背景と具体的な実践方法について実技を通して学びます。健康づくりの基礎理論、健康運動の実践のための心拍数の測定方法、生涯スポーツの技術を身につけることを目標とします。	
	保健体育実技 II	健康の保持増進という観点から、各種実技種目を通じて呼吸循環器系に適切な運動負荷を与えることを目的とし、健康体に関する各種運動・スポーツの重要性を理解させる。また、器具を用いない基本的な有酸素運動(ジョギング・ウォーキング)、の技術を習得し、日常の生活に則した健康体の保持増進に対して理解を深めさせる。有酸素運動実践のために、負荷の設定方法や心拍数の測定方法、健康運動・軽運動の技術を身につけることを目標とします。	

科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻科目 共通科目	生理学	人体は多数の細胞や器官を精巧に連携、調節、統合させながら恒常性を保ち生命活動を営んでいる。基本的な構造とともにそれらの仕組みを学ぶ。高校で生物学を履修していない学生にも理解できるように講義をすすめる。	
	生理学実習	生物は、生体内で恒常性を保ちながら生命活動を営んでいる。生理学実習では、「生理学」の講義で学んだ知識をもとに、このような生体システムについて、実際に測定・評価することでより深く理解することを目的とする。また実習を通じて、各種の生理指標を測定・評価する方法および手技についても、測定原理を含めて理解、習得することを目指す。	
	機能的解剖学	人体の構造を理解するとともに、運動器としての骨格、靭帯、腱、関節、筋肉を機能的解剖学という観点から理解する。各部位ごとの機能および解剖を理解する。	
	解剖学実習	機能的解剖学講義で履修した内容を、実際に自分の目で確かめ、より理解を深めることを目的として、標本をもとに骨学実習、脳と脊髄（脳実習）の観察実習および筋肉、脳・神経系、筋肉組織などの各部位についての観察実習を行い、人体の構造・成り立ちを理解する。	
	生化学	現在、地球上には多種多様な生物が存在しているが、もとは唯一の生命体から発したと考えられている。この生命体は地球環境と密接な係わりを保ちながら生かされている。しかし、現在、この地球は生物が生存するうえで非常に難しい状況に陥りつつあるように見える。生命体と化学物質・地球環境との係わり知ると共に生命体を構成する化学成分や生命の仕組み、維持機構について解説する。これより地球と生命の神秘を知り、人間が地球生物の一員であることを考える。この他にも、研究室で行っている植物、昆虫など、バイオの技法による組織培養、生理活性物質、DNAなど専門的な話題、さまざまな日常の科学的話題も適宜取り上げる。	
	健康管理概論	健康管理の目的は、人々が健康で長寿を全うできるように諸条件を社会が確立することである。本講義では健康管理における重要な問題について毎回異なるテーマをとりあげ説明する。そして、実際に地域で行われている健康管理活動について学ぶ。	
	衛生学・公衆衛生学	この講義においては、多要因から成る健康の成り立ちを生活レベルから理解し、人々の健康生活の保持増進や疾病の予防、医療・福祉のために考え、行動することができるように、考え方や知識を習得させる。なお、公衆衛生学は極めて包括的、学際的かつ集学的な学問体系であるため、関連した諸科学の学習が重要である。また、公衆衛生学には医学・医療の社会的適用という側面があるため、日頃から総合性、社会性、現実性、即時性を養うよう心がけることが望まれる。	
	健康科学	講義のメインテーマは、「自分のからだを知ろう！」である。人間のからだ（人体）を理解することに始まり、自分のからだを認識することで健康の重要性についての気づきを解説する。 (オムにパス方式/全15回) (15 川上雅之/8回) 基本的な生命の維持に関与する恒常性維持機構 (Homeostasis) 及び生体防御システム (適応と免疫) について考える。 (3 吉田繁子/7回) 健康に深く関与する食事そのものと栄養の働き、栄養と免疫、運動と栄養・休養の必要性、時間栄養学について論述する。	オムニパス方式
	メンタルヘルス	急速に変化していく社会生活の中で、よりよく生きていくために心の健康を維持することは不可欠である。この講義では、社会生活における心の健康や心の病についての基礎知識を学ぶ。また、健康な心の維持を援助するために家庭、学校・職場等で展開されているメンタルヘルス活動について学ぶ。	
	バイオサイエンス	自然環境の中では、植物も動物もそれぞれの種が互いに影響を与えながら生態系を構成している。生態系におけるエネルギー生産者である植物と人間との関係、植物の物質生産機能について解説する。	
	一般救急救命	2006年4月に策定された日本版救急蘇生ガイドラインを中心に学ぶ。さらに、シミュレーション人形を用いての実習をすることにより、万が一の状況の置かれた場合の対応も可能となる。	
	栄養学概論	生命活動を維持していくうえで必要な物質（栄養素）を外界から取り入れて利用する営みが栄養であり、栄養学概論ではエネルギー代謝の考え方、食べ物の消化・吸収、体内での栄養素の変化と役割、栄養と遺伝との関連、栄養アセスメント、栄養と健康・疾病等について概説する。	
	環境リスク論	私たちの身近な水や土壌について、水質汚染や土壌汚染の実例を取り上げながら、汚染物質の環境基準値、人体への影響、およびその浄化方法等の対策について解説する。	
	関係法規	あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師等に関する法律（以下「あはき法」）は、免許者の業務を規律し、公衆衛生水準の向上を図ることを目的として、基本原則、各種手続き等の規定が置かれている。これらあはき法における業務上必要な義務や責任について、関連する他の法規と共に学ぶ。	
	運動生理学	運動時人間の身体は、外的・内的刺激に対して的確に反応し、運動を遂行している。本講義は、運動時にダイナミックに変化する生体反応について生理学的に解説する。特に、筋収縮のメカニズム、運動時の呼吸・循環機能のメカニズム、運動中の体液の役割、様々な環境下での身体の応答などを視覚的な教材を用いて論述する。	
	内科学I (総論)	内科学は医学の基礎となる学問であり、内科学を理解することによって医学の基本的概念や考え方を身につける事が出来る。患者の診察や病気の診断法について学び、さらに各種の疾患がどのようなメカニズムから生じたのか、それらの疾患の身体機能や生命の予後はどのような経過をとるのかなどを理解する。	
外科学I (総論)	外科学一般について理解させ、現場で実践できるよう知識を高めさせる。		

科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専攻科目	専門科目	経絡経穴概論Ⅰ	経絡経穴は病態と関連し鍼灸を施す部位として用いるため、鍼灸の治療を学ぶ上で基本中の基本となる学問である。経絡の流れと経穴部位を把握することで、臓腑の異常な状態を知り、治療方法を組み立てることができる。正経十二経脈の中から上肢の経絡経穴を中心に、他者との差異を理解するために講義以外に演習も行う。	
		経絡経穴概論Ⅱ	経絡経穴概論Ⅰに引き続き、下肢の経絡経穴・督脈・任脈を中心に講義、演習を行う。	
		基礎経穴	経絡経穴概論Ⅰ・Ⅱで学んだ正経十二経脈の要穴、奇経八脈、奇穴等の由来や効用について、さらに経穴と筋肉・血管・神経との関連性、経筋等についても講義する。	
		東洋医学総論Ⅰ	鍼灸の施術において必要不可欠な東洋医学の基本的な概念や理論である、陰陽論や五行説について、および気血津液の働きについて詳しく講義する。	
		東洋医学総論Ⅱ	東洋医学総論Ⅰに引き続き、鍼灸施術の中でも特に診断時に必要不可欠な五臓五腑の生理、病理および、外邪、診断論について講義する。	
		基礎はりきゅう理論	鍼灸の技術を学ぶ上で必要な知識である、基本的な道具の名称、や技術の名称および、様々な技術についての知識を得る事を目的とした講義を行う。	
		応用はりきゅう理論	鍼灸による経穴への刺激が生体にどのように作用し、どのような反応が起きるのかなど刺激の伝達、体の各器官への影響、生体反応と治療効果のメカニズムを生理的見地からとらえて講義する。	
		東洋医学各論Ⅰ	東洋医学総論で学んだ基本的知識を元に、具体的な病名（証名）に対してどのような治療が必要かを学ぶ。治療については経穴の効能や様々な治療法も合わせて紹介する。	
		東洋医学各論Ⅱ	東洋医学各論Ⅰに引き続き、東洋医学総論で学んだ基本的知識を元に、具体的な病名（証名）に対してどのような治療が必要かを学ぶ。治療については経穴の効能や様々な治療法も合わせて紹介する。	
		東洋医学各論Ⅲ	伝統的な東洋医学における治療により、WHOが承認した鍼灸適応疾患のうち、特に高度な治療技術を必要とする分野について、疾病ごとに西洋医学との比較をしながら鍼灸治療の方法および臨床効果を科学的に論述する。	
		レディース鍼灸学	女性の身体の特徴を東洋医学の目でとらえ、女子胞における月経、生殖、妊娠、血液の流れなどの生理機能を高め、調和させる。女子胞を司る経穴を鍼灸により刺激することで、柔軟で女性らしくたおやかな身体と健康を持続し維持することを、科学的に解説する。また耳ツボの刺激は満腹中枢を高め、女性のダイエットに効果を発することなども科学的に論述する。	
		スポーツ鍼灸学	スポーツにおける外傷・障害について学習し、スポーツ分野における鍼灸治療の役割と重要性を理解する。同時に鍼灸治療において重要な傷害の発生メカニズム、機能解剖も習得する。	
		社会はりきゅう学	日本における鍼灸の歴史から、現在の社会的背景、および医療制度の面から見た鍼灸を学ぶ。また、介護の分野での鍼灸の効果などについても合わせて学習する。	
		基礎はり実技	鍼の刺入時に、痛まず、曲がらず、すばやく行える方法と、皮膚に刺入した後の鍼の基本操作を実技と体験を通して習得する。また適切な刺入部位を探るための指頭感覚の習得を目指す。	
		基礎きゅう実技	痛むところを温めるという行為を行ってきた人類は、その後艾を用いて治療をするという技術を習得した。一般的なきゅう師が用いる散艾を用いて、灸の基本技術である艾のひねり方、立たせ方、点火の仕方といった基本的な技術の習得を学ぶ。	
		鍼灸臨床実習Ⅰ	鍼の刺入時に、痛まず、曲がらず、すばやく行える方法と、皮膚に刺入した後の鍼の基本操作を実技と体験を通して習得する。また適切な刺入部位を探るための指頭感覚の習得を目指す。	
		鍼灸臨床実習Ⅱ	はりきゅう師にとって治療をするうえでカルテの記入が必要になる。この実習では実際に問診、所見を取り、治療方針をたてカルテを記入するまでを学ぶ。	
		鍼灸臨床実習Ⅲ	鍼灸臨床実習Ⅰ・Ⅱで得られた鍼灸の臨床実践技術をこの実習で定着し、さらに講義レディース鍼灸学で学んだ知識の実践実習を行う。	
		鍼灸臨床実習Ⅳ	スポーツ障害に対する鍼灸治療法を学んでいく。実際に実技を行い、講義で学んだ知識を活かせるよう、実践的な治療テクニックを習得していく。	
		鍼灸診察法Ⅰ	東洋医学概論Ⅱで学習した内容を前提に、東洋医学の診断法である四診法（視覚・聴覚・触覚・質問）の理解を深めるために、演習を通して臓腑の状態を探ることを身につける。四診法で得た情報をもとに陰陽五行の法則を用いたアプローチを施し、体表の変化を画像・関節可動域検査・徒手検査・ペインスケールなどで評価する。	
鍼灸診察法Ⅱ	鍼灸診察法Ⅰについて、鍼灸医学の科学的理論と技法を教育する。老年期にある者や、内科的疾患に対し、鍼灸刺激の生体反応を形態学・機能学・免疫学的にとらえ、個々の患者に最も適した個別の治療法が考案できるようにする。			
鍼灸治療所実習Ⅰ	付属施設にて、模擬患者となることではりきゅう師として施術時に注意すべきことや治療に必要な知識を学ぶと共に、鍼灸治療の効果を体験する。			
鍼灸治療所実習Ⅱ	付属施設にて東洋医学的および西洋医学的に問診、所見をとり、東洋医学的診断を行い、実際の患者に鍼灸治療を行うまでの一連のながれを学ぶ。			
学外関連施設見学実習	学外にてはり師・きゅう師が活躍する現場を見学し、実際にどのような立場で仕事をしているのかを学ぶ。			

科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻科目 専門科目	ウエイトコントロール論	誤ったダイエットの多い現在、運動・栄養の科学をとおして、たんに体重を増減させるといった視点ではなく、体組成の数値の意味について理解させ、次いで日常生活の中で健康を維持するための体重調節と、アスリートとしての体重調節につき種目別に理解させるさせる。 (オムニバス方式全/15回) (3 吉田繁子/8回) 食事・栄養によるウエイトコントロール (20 枝松千尋/3回) 基礎代謝、安静時代謝、活動代謝と消費エネルギーの動き、筋肉組織と脂肪組織の生理的意義 (8 椎葉大輔/2回) エクササイズやスポーツと関連させたウエイトコントロール (18 荒木直彦/2回) エクササイズやスポーツと関連させたウエイトコントロール	オムニバス方式
	健康食品学	現代の健康ブームに伴い健康食品が日常的に利用されているが、誤った情報が氾濫し、正しい知識が普及していないのが現状である。本講義では健康食品(特に保健機能食品、サプリメント)についてその効果だけでなく、可能性のあるリスクについても紹介する。	
	セラピー論	一般的に定着しつつある“香りをかぐアロマセラピー”ではなく、精油の成分分析及び体に与える作用などメディカルアロマセラピーの知識を学ぶことを目的とする。	
	リラクゼーション論	リラクゼーションとは心身をリラックスした状態へ誘導するための手段や方法のことで、その方法は実に多種多様である。それらの方法を科学的に解説しながら、身体と、呼吸と、心の面等から真のリラックス状態を作る方法を講義する。	
	ボディーケア	ヒトは60兆個の細胞から作られ、その細胞の一つ一つがそれぞれ生命維持の働きをしている。細胞環境をよくするためには十分に栄養を含んだ血液を滞らせることなく、身体の隅々にまで循環させ、細胞の新陳代謝を活発にし、自然治癒力や免疫力を最大限に発揮させることである。その科学を生理学、栄養学、運動科学と関連させながら学ぶ。 (オムニバス方式/全15回) (2 吉田悦男/5回) 細胞環境と生体膜組成、生体膜の機能性たんぱく質、輸送方法の種類等を学ぶ。 (3 吉田繁子/5回) 各種植物性食品に期待される栄養素としての機能やその他の機能性のほか、身体にとっての負担を減らし、細胞の新陳代謝を促し、心身を深くほぐすような植物性食品の働きを学ぶ。 (8 椎葉大輔/5回) ストレッチや各種運動を通じて、身体の疲れを除去し、更にリフレッシュする理論と方法を学ぶ。	オムニバス方式
	ボディーケア実習	身体の内側と外側から各種刺激をあたえることで、自ずとつぼが刺激され免疫力が高まり、新陳代謝の働きの促進、内臓機能の促進により体の不調や、肩こり・冷え、にきび・かさかさ・口内炎等皮膚異常を予防する方法を学ぶ。 (オムニバス方式/全15回) (2 吉田悦男/5回) 内部刺激および外部刺激によるストレスや損傷とその回復をモデルなどを利用して理解する。また学外講師を招き整膚を体験させる。 (3 吉田繁子/5回) ケアを目的とした漢方的食材やハーブを使用した調理や視覚的アレンジ等 (8 椎葉大輔/5回) レジスタンストレーニングとストレッチ等	オムニバス方式
	アロマセラピー	香気物質のヒトに対する作用、自律神経、内分泌、免疫機能を高めることにより起こる香気の効用(リラックス効果、ストレス除去効果、鎮静効果、リフレッシュ効果、血液循環促進効果など)について講義する。	
	ヒーリング実習	人間は、「心」と「身体」の健康を維持できる限界を超えたストレスを社会から受けている。ストレスは脳機能を低下させ、精神症状、身体症状をおこす原因となる。現代のストレス社会の中で、安定した精神活動、生命活動を営み、置かれている環境に適応するためには、リラクゼーションによってストレスによる興奮から脳を解放して休息させ、低下した脳機能を活性化させなければならない。ヒーリング方法には、パワーヨーガ、ピラティスを取り上げる。	
	中医栄養学	中医学では医食同源、薬食同源を旨とし、その栄養学は個人の体質を考慮して個人の体質に合った食材を選別し、調理法を選び、栄養の働き、生理機能を高める。その実際を西洋医学における現代栄養学と関連・対照させながら講義をする。	
	中医栄養学実習	漢方医学(中医学)を基礎とした栄養学には食品に対する新しい価値を見出すことができる。カロリー、栄養成分だけでなく、体を冷やす・暖める、臓器に影響を与える等、漢方医学独特の発想で献立を考えてみた時、食材に対する考え方、取り合わせについても新たな感動が生まれると思う。身近な食品を使用し、季節と症状にあわせた薬膳料理を実習する。	
	漢方学	現在の日本は西洋医学による体の診断法が主流になっているが、四季があり、それぞれの季節の特徴がはっきりしている日本においても、中国という同じ様な自然環境から生まれた漢方医学(中医学)の見地からのとらえ方も大きな意味を持っていると考えられる。西洋東洋両面から体を考えるという新しい診方を講義する。	
	化粧品科学	スキンケア製品(基礎化粧品)、メーカーアップ製品(仕上げ用化粧品)、フレグランス製品、トイレットリー製品(シャンプー、リンス、石鹸、入浴剤)等の化粧品の原料(界面活性剤、油剤、顔料、香料、美白剤、保湿剤など)や製造方法について詳しく講義する。さらに、皮膚や毛髪の生理、安全性など皮膚に関わること、安定性や品質管理、生産システムなど生産に関わること、流通システム、薬事法などの関連法規を含め、化粧品開発にかかわる事柄を科学的・総合的に講義する。	

科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専攻科目	専門科目	植物機能学	植物は偉大な能力を持っている。この地球上の自然環境・現象のコントロールをはじめ、あらゆる生き物にとっての基盤を成すものである。太陽と水と空気、そして少しのミネラル分によって元気に成長する。光合成能力により、酸素を出し、炭酸ガスを取り込み、その内部に糖をはじめ、たんぱく質、脂肪など多くのものを溜め込む。また、自身が健全に生育・繁殖するために、各種の成分を溜め込んでおいて、人間にとって貴重な成分を有している。このような特異な機能、性質について講義する。	
		植物成分分析実験	植物は自身が生き延びるために、その体内に様々な成分を溜め込み、また様々な機能を有している。例えば薬用成分、色素成分、香り成分などがある。人間は、これらの成分を有効利用するために、永年世界各地の植物を探索し、その成分を抽出・分離して性質・構造の探求を行ってきた。本実験を通じて、これらの成分の分離、定性・定量を行うとともに、植物の持つ様々な機能・性質を知り、有用成分の分離・分析操作や機器分析技術を体得する。	
		栽培学	耕地に作物を育てて収穫をあげるすべて手段を栽培といい、それらは一般に農業生産の主体をなしている。通常、農業生産は屋外で行われるため、自然環境の影響を強く受ける。時々刻々と変わる自然環境の中で、植物を育成し収穫をあげることが栽培の本質である。この講義では、基礎的な植物の構造や生理機能について解説し、播種から収穫期に至るまでの植物の成長と環境が及ぼす影響について説明する。さらに、整地、施肥、病害虫防除といった具体的な栽培技術について解説し、作物栽培が実践できるようになることを目的とする。	
		栽培学実習	栽培学で得た知識をもとに、実際に耕地で植物の栽培をおこなう。アロマテラピーや薬膳などに利用される香りや機能性成分を持つハーブや香辛料を栽培対象として、植え付け前の土壌管理から、播種、施肥、病害虫防除、水管理など年間を通して作物栽培をおこなう。播種から収穫までの作物の成長過程を理解し、栽培管理技術を習得することを目的とする。	
		病理学	病気や外傷をその組織・細胞の形態的变化から捉え、発展した学問である。すべての疾患の基礎となる考え方を理解し、救急医療の基本的な知識を学ぶ。	
		脳外科学	脳神経外科の基本的知識や疾患、特に脳血管障害や脳・神経外傷などの病態について学習し、医療人として役に立つ知識と技術を養えるようにする。	
		生活習慣病予防	生活習慣病とメタボリックシンドロームとの関連、各種生活習慣病発症の原因・予防・治療法および運動や食事による処方について解説する。講義に当たっては生活習慣病予防に必要な運動と食事の知識につき、共通する部分と疾病別に分けて考えなければならない部分を、系統立てて理解するよう導く。 (オムニバス方式) (2 吉田悦男/8回) 各種生活習慣病の成因、メタボリックシンドロームとの関連、予防、治療につき講義 (3 吉田繁子/7回) 各種生活習慣病と食生活・食習慣との関連、予防・治療における食事の在り方につき講義	オムニバス方式
		スポーツ医学Ⅰ	本講義では、アスリートの健康管理について内科的・外科的観点からその障害と対策について学習することを目的とする。具体的には、コンディショニングの手法、アスリートの内科的障害、外傷・障害とその対策等について取り上げ、アスレティックリハビリテーションとトレーニング計画についても解説する。また、特殊環境下での対応やドーピングに関する基礎的知識についても習得させる。	
		スポーツ医学Ⅱ	アスレティックトレーナーが活動を行う上で必要となるスポーツ外傷・障害の基礎的知識について理解することを目的とする。具体的には、上肢・下肢・体幹における主なスポーツ外傷、重篤な外傷の病態や発生機転、診断方法、画像診断、徒手検査について解説する。また、年齢、性差等によるスポーツ外傷の特徴を習得することができるようにする。	
		スポーツ医学Ⅲ	アスリートにみられる内臓器官、感染症、オーバートレーニング症候群や突然死、過換気症候群などの疾患の病態、症状、対応策と処置、予防措置について講述する。また、様々な環境下での運動時における生体の反応、順応、それらの環境下での障害について、さらに、女性や高齢者、発育期の子どもの生理的特徴や運動に対する応答、特異的障害についても学習させるとともに、メディカルチェックの意義や必要性、実施内容、ドーピングコントロールなども幅広く解説する。	
		スポーツ社会学	社会的現象である文化としてのスポーツの様相と動向を社会変化との関連から客観的に把握し、競技スポーツ、商業スポーツ、みんなのスポーツ、生涯スポーツなどに対し、基本的な考え方を講述する。スポーツ社会学に関する基本的知識を身につけるとともに、生涯スポーツ、みんなのスポーツに対する理解を深めることを目的とする。	
		スポーツ指導論Ⅰ	本講義では、スポーツ指導者として必要となる心構えやアスリートに対する視点について学び、様々な競技者育成プログラムの理念について知ることを目的とする。また、実際の指導計画の立て方やスポーツ活動時の安全管理、スポーツ事故におけるスポーツ指導者の法的責任を概説するとともに、管理栄養士と連携したアスリートの日常的な栄養ケアについても取り上げ講述する。	
		スポーツ指導論Ⅱ	指導者であるアスレティックトレーナーとプレーヤーとの望ましい関係やそのために必要なミーティングの方法、競技者育成における指導計画と評価について講述する。また、競技力向上のためのチームマネジメントやアスレティックトレーナー自身のメンタルマネジメントについても取り上げるとともに、スポーツによる精神障害と対策についても触れる。	

科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻科目 専門科目	スポーツトレーニング理論	各種身体運動の基礎知識を理解させると同時に、スポーツの基本的なトレーニングとして筋力及び持久力を向上させるトレーニング理論について学習させる。また、効率的なトレーニング方法及び指導方法についての知識を習得する。本講義は教員4名が担当し、オムニバス形式で進める。	
	スポーツ指導者基礎	今やスポーツ指導者が求められる資質は、当該競技の経験や実績だけではない。指導対象者の特性などを理解した指導から、障害に対する一時的なケアに至るまで、現場では様々な能力が求められている。本講義では、スポーツ指導者が直面する様々な事象を想定し、スポーツ現場における指導者としての役割や責務を含め講義する。スポーツ指導者であるアスレティックトレーナーが活動する上で必要となる基礎的な知識を習得することを目的とする。具体的には、スポーツ活動中に多いケガや病気とそれに対する救急処置、発育発達期や中高年期、女性の身体的・心理的特徴を考慮したプログラム作りについて講述する。また、スポーツバイオメカニクス、運動スキルの獲得とその獲得過程、競技スポーツとITとのかかわりについても取り上げる。	
	アスレティックトレーナー概論	本講義では、アスレティックトレーナー(AT)の役割と意義について学習することを目的とする。AT養成の歴史的背景や世界の状況を概観するとともに、ATの具体的な業務内容やATを取り巻くサポートスタッフの構成とその役割について理解させる。また、ATが置かれている社会的立場と貢献について、ATの倫理規定を示し倫理についても触れる。	
	スポーツ心理学	スポーツの心理的効果や心理的要因がスポーツのパフォーマンスに及ぼす影響など、スポーツの心理的テーマを広くシステムティックに取り上げ解説する。また、様々なスポーツ場面や指導場面において、スポーツ心理学が具体的にどのように応用されていくかについて学習することにより、スポーツの心理的効果や心理的要因についての知識を深める。	
	体表解剖学	アスレティックトレーナーが行う選手の動作の運動学的観察、スポーツ障害の評価、原因の固定、アスレティックリハビリテーションなどのトレーナー活動に最低限必要な人体の構造と機能について理解させることを目的とする。そのために、運動器の骨、筋、靭帯、関節、神経支配と身体運動とを関連づけて概説する。	
	運動負荷試験(実習含む)	本講義は、運動負荷試験の意義と手法を身につける事を目的とする。具体的には、運動生理学の基礎理論、運動に対する生理学的諸指標の応答と実際などを取り上げ、運動制限の要因となる疾病の病態生理、運動負荷テストのプロトコルを提示し、被験者への評価、判定などの分析、考察について解説する。また、実際に実験機器を用いた負荷テスト(実習)によって心電図およびガス代謝の読み取り、判断する能力を養成する。	
	テーピング理論(実習含む)	スポーツ場面におけるケガや傷害に対する予防及び処置の仕方について理解し、実習を通してテーピングを用いた対処法を学び、コンディショニングづくりをサポートできる能力を高める。	
	スポーツコンディショニング理論	コンディショニングの概念を理解し、スポーツ実践者(競技者)が目標とする競技活動において最高のパフォーマンスを発揮するための要因、具体的な方法の実際を競技特性を踏まえて学習することを目的とする。具体的には、ウォーミングアップとクーリングダウン時のストレッチング、スポーツ活動時に必要となるテーピングの意義や目的、有効性、注意点、方法等について理解させるとともに、様々なコンディショニング方法について取り上げ、それらを実践で使え指導できるようにする。	
	アスレティックリハビリテーション理論	アスレティックリハビリテーションの意味を知り、その実践にあたって必要となる基礎知識の習得を目的とする。具体的には、リハビリテーション・アスレティックリハビリテーションの定義と歴史、アスレティックリハビリテーションの概要、アスレティックトレーナーの活動内容等について概説する。また、機能評価、アスレティックリハビリテーションで用いる基本的手法の概要を理解するとともに、進行上のリスク管理についても触れることとする。	
	アスレティックリハビリテーション実習	アスレティックリハビリテーションの中で最も主要となる各種エクササイズ、補助的な手法となる物理療法についての基礎理論を学ぶ。また、外傷予防とを目的として使用機会の多いテーピング、装具、足底挿板等の補装具について学び、適切な指導、使用ができるための技術を得る。さらに、外傷ごとのリスク管理に基づいたアスレティックリハビリテーションのプログラミングと実践を行う。	
	アスレティックトレーナー実習Ⅰ	アスレティックトレーナーの業務内容を理解することを目的として実施する。検査、測定、評価において必要とされる知識、技術を習得する。また、アスレティックリハビリテーションのプログラム作成を行い、スポーツ実践者(競技者)に指導できるようにするとともに、他領域の専門家とコミュニケーションがとれるようになることを目指す。	
	アスレティックトレーナー実習Ⅱ	アスレティックトレーナー実習Ⅱでは、アスレティックトレーナー実習Ⅰで習得した知識・技術をもとに、アスレティックトレーナーの業務内容についての理解をより深めることを目的として実施する。	
	アスレティックトレーナー実習Ⅲ	アスレティックトレーナー実習Ⅲでは、アスレティックトレーナー実習Ⅰ・アスレティックトレーナー実習Ⅱで習得した知識・技術をもとに、アスレティックトレーナーの業務内容についての理解をより深めることを目的として実施する。	
	トレーニング科学	健康の維持増進・競技力向上のためのトレーニングに関する概念、およびそれぞれの科学的基礎、各種トレーニング方法について解説し、トレーニングが生体に与える効果を理解する。	
バイオメカニクス	安全に効率的にスポーツのパフォーマンスを向上させるためには、スポーツ技術の裏側にあるものを理解し、分析し、そして新たなものを創造することが必要である。本講義では、力学・人体解剖学・運動生理学の複合領域であるバイオメカニクスを学び、科学的な視点からスポーツ技術を理解することを目指す。		
体力測定法(実習含む)	運動機能、運動能力、そして運動技能について、測定方法を学び実習する。実習のデータ処理、分析、推定値などの統計処理及びデータの妥当性・客観性を検定する技能を習得する。		

科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	ストレッチング理論(実習含む)	スポーツは競技選手だけでなく、一般の人たちの間にも浸透し、エネルギー消費量が少ないスポーツ(運動)から、体力の限界まで挑戦するスポーツが行われている。このような普及がありながらスポーツ予防医学の理解度は不足しているようである。この授業はこれらの身体運動を踏まえ、スポーツ障害の予防と、治療としてのストレッチングについて学ぶことを目的とする。	
	スポーツ障害論	スポーツに関連する外傷、障害について理解するとともに、その発生の予防法についても理解する。できれば、種目別スポーツ障害も理解したい。	
	栄養指導論	自分自身が何をどれだけ食べたらよいのかを学んだ後、人々の健康の維持・増進、疾病の予防と治療のためには、栄養の知識とその実践スキルをどのように対象に伝え、セルフケアと習慣化をさせていけばよいかの基本を、個人または集団などの対象別に学ぶ。対象の栄養アセスメントができ、特定の個人または特定の集団の特性に合わせた指導法を身につける。	
	スポーツ栄養学	スポーツ選手のための栄養には、パフォーマンス発揮を支える側面と、パフォーマンス向上を支える側面がある。基礎栄養学を十分理解させた後、運動中および運動後に時々刻々と変化するからだの中の栄養の状況を理解させ、個々のスポーツ選手が体力・競技力を向上させるためには、どのように栄養学を利用したらよいかを講義する。	
専攻科目	体育原理	体育・スポーツ領域の事象を扱うにあたり、まずはその本質を理解することが必要となる。したがって、本講義では「体育」、「スポーツ」、「運動」および「プレイ」の概念・性質を検討したのち、具体的な事象を取り上げ考察し、体育・スポーツについての理解を深める。	
	スポーツ実習Ⅰ(陸上)	本講義は、陸上競技の実習科目であり、基本的な陸上競技種目の特性と技術、競技ルールについて理解させる。また、指導の方法についても学習させる。	
	スポーツ実習Ⅱ(水泳)	水泳競技の練習及び指導方法について学習する。また、水泳における安全管理、水難救助に関しても学ぶ。	
	スポーツ実習Ⅲ(球技)	球技の中でもサッカー、バスケットボールを中心に高等学校および中学校の学習指導要領にのっとった、指導方法ならびに技術トレーニング方法を身につけることを目的とする。	
	スポーツ実習Ⅳ(武道)	日本古来の武道精神に乗取り、柔道の真髄を正しく理解させることを目的として、精神の鍛錬と技の技術を習得させることを教授する。	
	スポーツ実習Ⅴ(テニス)	テニス競技の基本から応用にいたる練習及び指導方法について学習する。また各種ゲームの楽しみ方についても解説する。	
	スポーツ実習Ⅵ(体操)	学校教育および生涯スポーツの中で実施されている体操(器械運動)は、身体を制御する能力を高める運動として効果的である。そこで、体操(器械運動)の実施方法や指導方法並びに補助法などを身につけることにより、将来の活動現場において有益な助言・指導が出来る能力の習得を目的とする。	
	ウィンタースポーツ実習	ウィンタースポーツ技術の向上を図ることで、運動不足になりがちな冬季にできるスポーツの幅を広げ、季節に応じたスポーツ活動の実践と指導ができるようになることを目的に行なう。	
	フィールドワーク	私たちの周りの自然環境について、自然の大切さを知ることを目的に、里山の保護と自然観察、生物と環境の相互作用、植物の生長と生産力及び水や土壌の環境汚染について、それらの調査方法や測定・解析方法などを自ら学び、習得する。なお、テーマ1は全員があたり、テーマ2～5は4河邊、テーマ6～8は1内藤、テーマ9～11は19加藤、	
	コンピュータリテラシ	コンピュータやインターネットを活用できるようになることは、現代社会において必要不可欠な基本事項である。この授業ではコンピューターの基本的な仕組みを理解した上で、実際にコンピューターとインターネットを活用して、情報検索、情報収集、文書作成、計算、発表する方法について学ぶ。また、コンピューターとネットワークの利便性の裏に潜む危険性や法令についても学ぶ。	
	卒業研究	与えられた研究課題にそって過去の関連論文や資料を収集読了し、得られた情報を自己の興味と疑問点、探求したい部分を考慮して自分流に組み立て直し、研究計画を立て研究を進める。実験データを分析・解析し、卒業論文にまとめる。	

(注)

- 1 開設する授業科目の数に応じ、適宜枠の数を増やして記入すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。

設置の趣旨等を記載した書類

ア 設置の趣旨及び必要性

(a) 沿革及び基本理念

学校法人加計学園は、岡山理科大学、倉敷芸術科学大学、倉敷芸術科学大学専門学校、千葉科学大学、岡山理科大学附属高等学校、岡山理科大学附属中学校、岡山理科大学専門学校、玉野総合医療専門学校を設置し、建学の精神「一人一人の若人が持つ能力を最大限に引き出し、技術者として社会人として社会に貢献できる人材を育成する」に則り、40年間以上、教育研究体制の充実に努めてきた。

倉敷芸術科学大学は、平成7年4月に倉敷市ならびに岡山県の強い要請と県民・市民の要望を受け「芸術学部」「産業科学技術学部」「国際教養学部」（平成12年4月教養学部から名称変更）の3学部を擁する大学として開学し、私学として特色ある教育に取り組んできた。さらに、平成16年度には社会のニーズに応えるべく大幅な改組を行い、「芸術学部」「産業科学技術学部」「生命科学部」の3学部体制で再スタートした。

「生命科学部」は、現在「生命科学科」、「生命医科学科」、「生命動物科学科」及び「健康科学科」の4学科で構成されている。この中で、「生命科学科」と「生命医科学科」では、臨床工学技士、臨床検査技師ならびに細胞検査士の養成施設として、また「健康科学科」では救急救命士、健康運動実践指導者、健康運動指導士の資格取得を目指した医療福祉分野で活躍する人材の育成に努めてきた。このように、生命科学部では西洋医学を基礎とした近代医学教育を通じて、病気の診断確定や救急医療に貢献できる人材の育成と共に運動指導を通じた疾病予防や健康の維持増進に貢献できる人材の育成に努めている。近代西洋医学の診断・診療技術は優れたものではあるが、一方で健康の維持増進のためには、食生活の改善や現代社会で多くの人々が抱えるストレスの軽減を目的としたリラクゼーション、QOL(Quality of Life)を高めるボデイケア等の東洋医学に重点を置いた予防医学的なアプローチも求められている。そこで「健康科学科」の西洋医学に関連する教育研究内容を基礎として、新たに東洋医学やメンタルケアの教育研究分野を取り入れた「生命科学部健康医療学科」を設置することにした。

(b) 新学科設置の必要性

現代社会では、年齢を問わず幼児から高齢者までの各世代の人々が競技としてのスポーツや、娯楽・健康維持としての運動を楽しんでいる。しかし、無理なトレーニングや、年齢・体力に見合わない過度の運動によって、スポーツ障害による様々な運動器の症状を訴える人が多い。一方で日常の運動不足や現代社会のストレスによる体調不良が中・高年齢層を中心に広くみられる等、現代社会特有の健康上の問題を抱える人が多くなってきている。こうした問題の解決には、西洋医学的な観点だけからではなく、東洋医学的な理論、実践を取り入れた予防医療・ケ

ア医療に取り組む教育・研究が不可欠である。さらに、近年問題となっている生活習慣病に対しての予防対策として、運動処方からのアプローチだけではなく、薬膳等を取り入れた食生活指導と共に、心身のストレスを軽減させる取り組みが必要である。そのためには、メンタルケアとしての健康医療的な視点から、アロマセラピー、ヒーリング等のリラクゼーション分野を積極的に取り入れることも重要であると考え。以上のような観点から、西洋医学に基づくスポーツ障害予防、東洋医学に基づく健康維持増進、そしてメンタルケアとしてのリラクゼーション分野を統合して、人間の健康生活分野で地域社会に貢献できる人材の育成を目的とした「健康医療学科」を設置する。これは、国が進める「一次予防」（生活習慣を改善して健康を増進し、生活習慣病等を予防すること）に重点を置いた対策を推進する方針とも合致するものである。

また、人の生命・健康に直接関わる医療分野では特に高い倫理観と優れた見識を持った人材の育成が必要であり、高等教育機関での人材育成が急がれるが、東洋医学に基づいた鍼灸師の育成が可能な大学は全国に9大学で（平成22年度現在）、しかも関東・関西地区に集中しており、中四国地域には現在開設されていない。さらに、現在岡山県内には鍼灸師養成の専門学校が1校あるのみである。したがって、本学に設立予定である「健康医療学科」は中四国で初の鍼灸師養成大学となる。なお、新学科では、高い倫理観と優れた見識を持った人材の育成のために、より少人数での徹底した教育を行うことが望ましいと考え、1学年の定員を30名とした。

本学では生命科学部に「健康科学科」が開設されており、保健科学及び運動科学分野の教育研究をもとに、スポーツ指導者、健康運動指導士・健康運動実践指導者、救急救命士、保健・保健体育の教員等の養成を行っている。健康科学科では、一部の学生からの要望もあり、平成22年度から東洋医学分野の科目群（東洋医学総論、鍼灸理論、経穴経絡概論、基礎経穴経絡演習）を開講している。この度、平成23年度に向けてのカリキュラム編成のために、『東洋医学的分野の科目、資格等に関するアンケート調査』を健康科学科の学生を対象に実施した。

実施時期	平成22年4月
対象	健康科学科の学生
回答者数	117名

「東洋医学の分野に関心がある」と回答した者：約58%

「スポーツ分野において東洋医学の内容は役に立つと思う」と回答した者：約94%

「今までに東洋医学的な治療（はり、きゅう等）を受けたことがある」と回答した者：約50%

「健康科学科で、東洋医学的な勉強をしたいと思う」と回答した者：約69%

「東洋医学分野の実技実習を受講したい」と回答した者：約62%

「東洋医学分野の資格取得（あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師等）を考えたことがある」と回答した者：約50%

健康科学科では、授業や部活動でスポーツ競技を行う学生が多く、そのために、程度の差はあれ、スポーツ障害を経験した学生は特に東洋医学分野についての興味・関心が高いものと考えられる。一方、岡山県内の一部の高等学校の健康スポーツ学科の生徒に対して実施した同様なアンケート調査結果では、「スポーツ分野において、東洋医学の内容は役に立つと思う」と回答した者は約 94%で、その内半数の者が「東洋医学の分野に関心がある」と回答している。岡山県内の高等学校に限定してみても、体育科、スポーツコース、スポーツ部門等を開設している高等学校は約 10 校あり、またその他スポーツ競技の盛んな高等学校も多数あるため、「健康医療学科」の教育内容、人材育成の目的等を広く周知徹底すれば、学生確保の見通しは十分あるもとを考えている。

(c) どのような人材を育成するのか

「健康医療学科」では、既存の「健康科学科」の教育研究分野の中で栄養管理や西洋医学分野を基礎としながら、新たに東洋医学的な視点に立って、人間の体と心のケアに焦点を当てた教育を行い、健康医療分野で広く社会に貢献できる人材の育成を目的としている。医学の基礎知識はもとより、人間の身体メカニズムや運動が健康に及ぼす影響を検証するスポーツ健康科学や栄養学等、食が健康に及ぼす影響を理解しながら、人間が持つ自然治癒力により心身の健康回復を図る東洋医学に基づく予防医療に係わる鍼灸師の養成を目指す。生活習慣病予防対策やストレスの多い現代社会でのメンタルケアの立場に立って、リラクゼーション指導ができるセラピスト等の養成、またスポーツ選手等のトレーナーとしての障害予防・身体ケアを担うアスレティックトレーナー（AT）の養成等、統合医療的なケアができる人材育成を目指している。

そのため、本学科では、はり師・きゅう師（国家資格）、アスレティックトレーナー（民間資格）、アロマセラピー検定（民間資格）等の資格取得へ向けたカリキュラムを配置しており、将来的には鍼灸院、医療機関、独立開業、スポーツ関連施設、リハビリ・高齢者施設、企業の健康管理業務等への就職が考えられる。その他、健康科学及びスポーツ科学の分野をより専門的に勉強したい学生は本学大学院進学も可能である。

イ 学科の特色

「健康医療学科」は、中央教育審議会答申「我が国の高等教育の機能」のなかで、「幅広い職業人の育成」、「地域社会に貢献できる人材育成」を目的としている。鍼灸師の仕事は、人体を取り扱うものであるため、特に高い倫理観と高度な専門技術を有することが必要で、本大学がこれまでに蓄積してきた臨床検査技師、臨床工学技士及び救急救命士の養成課程での医学教育をもとにそれらを達成することが可能である。新学科を生命科学部の中に設置することの目的の一つは、既存の 4 学科の学生が学ぶ保健・医療・心理・栄養・運動等多くの関連領域の授業科目が履修可能となることで、広い視野と良識を持ち、総合的かつ横断的な知識と高度な技術を持つ専門的

職業人を育成することにある。特に、東洋医学が重視する全人的健康づくりには、運動・食・精神ケアの分野が深く関連しており、医学・運動領域の科目の履修でアスレティックトレーナーの資格取得が、また、リラクゼーション分野においてはアロマセラピー検定（民間資格）が受験可能となっており、東洋医学に基づく健康の維持増進に加えスポーツトレーナーとしてのスポーツ障害予防やメンタルケアも可能な「統合的医療」に貢献できる人材の育成が可能である。新学科における 4 年間の研究教育の成果として養成されるこれらの人材は、地域の医療・福祉分野において、子供からお年寄りまでの広い世代に対して健康の維持・増進に貢献してくれるものと期待できる。

ウ 学部、学科等の名称及び学位の名称

(1) 学科の名称

「健康医療学科」

(Department of Medical Care and Health Science)

現代社会では、日常の生活習慣やストレスによる疾病・体調不良が一般に広くみられる等、現代社会特有の健康上の問題を抱える人が多い。一方、運動不足解消のために健康運動・スポーツを楽しむ人も多いが、その分、無理なトレーニングによってスポーツ障害を起こす人も多い。こうした問題の解決のためには、西洋医学的な観点からだけでなく、東洋医学的な理論・実践を取り入れた予防医療・ケア医療に取り組む必要がある。このことから、「健康医療学科」では、鍼灸分野の技術・知識のみを身に付けた人材育成ではなく、メンタルケアのできるセラピストの養成や、生活習慣病に対する予防策としての薬膳等を取り入れた食生活指導ができる人材の養成、また健康運動・スポーツ活動における障害予防・身体ケアを担うアスレティックトレーナーの養成を目指す。このように、新学科は、統合医療的に人間の健康ケアができる人材の養成や、それら分野の専門的な研究を行うことから、学科名称を「健康医療学科」とする。

(2) 学位の名称

「学士（健康科学）」

(Bachelor of Health Science)

「健康医療学科」は、既存の「健康科学科」の教育研究内容を基礎として設置される学科であり、カリキュラム構成上、西洋医学分野やスポーツ分野の授業科目が共通となる。また、「健康医療学科」のカリキュラムが、鍼灸分野のみに限定したのではなく、スポーツリハビリテーションやリラクゼーション等の分野を含む統合的な健康ケアに関する教育研究内容であることから、既存の「健康科学科」と区別することなく、同様な学位名称として、学位を学士（健康科学）とする。

エ 教育課程の編成の考え方及び特色

健康医療学科では前述ア及びイで示した人材を育成するため、下記のような方法で教育課程を編成する。

教育課程は教養科目と専攻科目から編成され、教養科目については全学共通に開設する。専攻科目は共通専門科目と専門科目、専門関連科目から構成される。

卒業要件は教養科目を20単位以上、専攻科目を90単位以上、合計で124単位以上である。

(1) 教養科目

本学では、教養教育を総合的な判断力を培い豊かな人間性を涵養するという大学が持つ重要な教育課程の一つと位置づけ、全学共通に開設された教養科目によって教育が行われている。教養教育は専門教育をさらに深化させる際に必要不可欠な教育であるという考えに基づき、本学の教養教育では幅広い学識を教授し、総合的判断力を培うことを目的に伝統的な「文化」・「社会」・「自然」・「総合」の4分野からなる「教養教育科目群」を、また現代のグローバル化に対応するために「外国語科目群」（留学生用の日本語も含む）を、そして健全な健康を目指す「保健体育群」の3領域から構成されている。

「教養教育科目群」を4つに分類し、「文化」に関する科目として、哲学、文学、歴史学、日本語表現、宗教学、社会と言語、心理学の7科目（選択科目）を開講している。「社会」に関する科目として、政治学、環境と社会、日本国憲法、法学、経済学の5科目（選択科目）を開講している。「自然」に関する科目として、物理学、化学、人間と環境、地球科学、数学の5科目（選択科目）を開講している。「総合」に関する科目として、世界と日本、アジアの政治文化、マスコミ論、文章表現法、人間の発達と形成、日本の伝統芸能、芸術と科学の協調、人生と仕事Ⅰ、人生と仕事Ⅱ、キャリアラーニング、キャリアチャレンジⅠ、キャリアチャレンジⅡ、基本数学、基本英語、基本物理、基本化学の16科目（選択科目）を開講している。

「外国語科目群」として、英語Ⅰ（必須科目）、英語Ⅱ（必須科目）、中国語Ⅰ、中国語Ⅱ、英会話Ⅰ、英会話Ⅱ、ドイツ語Ⅰ、ドイツ語Ⅱ、日本語Ⅰ、日本語Ⅱ、日本語会話Ⅰ、日本語会話Ⅱ、日本語理解Ⅰ、日本語理解Ⅱの14科目（英語Ⅰ・Ⅱ以外は選択科目、日本語科目は留学生対象科目）が開講されている。

「保健体育群」として、保健体育概論、保健体育実技Ⅰ、保健体育実技Ⅱの3科目（選択科目）が開講されている。

(2) 共通専門科目

鍼灸の医療専門職として、西洋医学の根幹をなす基礎医学知識を系統的に学習することは不可欠である。また同時に、我々を取り巻く環境及び現代の生活習慣について幅広く理解することも重要である。そのため「共通専門科目」として、生理学、生理学実習、機能的解剖学、解剖学実習、生化学、健康管理概論、健康科学、衛生学・公衆衛生学、メンタルヘルス、バイオサイエンス、一般救急救命、栄養学概論、環境リスク論、関係法規、運動生理学、内科学Ⅰ（総論）、外科学Ⅰ（総論）の17科目（選択科目）を開講する。

(3) 専門科目

専門科目は、鍼灸学に関する専門的な知識・技術を習得する健康医療学科の根幹をなす重要な科目である。また同時に、総合医療的な健康ケアに関する科目も配置する。具体的には、リラクゼーション等のメンタルケアに関する科目、薬膳を取り入れた食に関する科目、そして鍼灸師がスポーツ選手や健康運動に親しむ人のケアをする機会が極めて多いことからアスレティックトレーニングに関する科目を配置している。「専門科目」として、経絡経穴概論Ⅰ、経絡経穴概論Ⅱ、基礎経穴、東洋医学総論Ⅰ、東洋医学総論Ⅱ、基礎はりきゅう理論、応用はりきゅう理論、東洋医学各論Ⅰ、東洋医学各論Ⅱ、東洋医学各論Ⅲ、レディース鍼灸学、スポーツ鍼灸学、社会はりきゅう学、基礎はり実技、基礎きゅう実技、鍼灸臨床実習Ⅰ、鍼灸臨床実習Ⅱ、鍼灸臨床実習Ⅲ、鍼灸臨床実習Ⅳ、鍼灸診察法Ⅰ、鍼灸診察法Ⅱ、鍼灸治療所実習Ⅰ、鍼灸治療所実習Ⅱ、学外関連施設見学実習、ウェイトコントロール論、健康食品学、セラピー論、リラクゼーション論、ボディーケア、ボディーケア実習、アロマセラピー、ヒーリング実習、中医栄養学、中医栄養学実習、漢方学、香粧品科学、植物機能学、植物成分分析実験、栽培学、栽培学実習、病理学、脳外科学、生活習慣病予防、スポーツ医学Ⅰ、スポーツ医学Ⅱ、スポーツ医学Ⅲ、スポーツ社会学、スポーツ指導論Ⅰ、スポーツ指導論Ⅱ、スポーツトレーニング理論、スポーツ指導者基礎、アスレティックトレーナー概論、スポーツ心理学、体表解剖学、運動負荷試験（実習含む）、テーピング理論（実習含む）、スポーツコンディショニング理論、アスレティックリハビリテーション理論、アスレティックリハビリテーション実習、アスレティックトレーナー実習Ⅰ、アスレティックトレーナー実習Ⅱ、アスレティックトレーナー実習Ⅲ、トレーニング科学、バイオメカニクス、体力測定法（実習含む）、ストレッチング理論（実習含む）、スポーツ障害論、栄養指導論、スポーツ栄養学の69科目（選択科目）を開講する。

(4) 専門関連科目

鍼灸師がスポーツ選手や健康運動に親しむ人のケアをする機会が極めて多いことから、各種スポーツについての幅広い知識と経験を得ることは重要である。そのため「専門関連科目」として、体育原理、スポーツ実習Ⅰ（陸上）、スポーツ実習Ⅱ（水泳）、スポーツ実習Ⅲ（球技）、スポーツ実習Ⅳ（武道）、スポーツ実習Ⅴ（テニス）、スポーツ実習Ⅵ（体操）、ウィンタースポーツ実習、フィールドワーク、コンピューターリテラシーの10科目（選択科目）及び卒業研究（選択科目）を開講する。

オ 教員組織の編成の考え方及び特色

「健康医療学科」は、既存の「健康科学科」の教育研究内容を基礎として新たに設置する学科である。「健康科学科」が保健科学と運動科学の両面から健康生活分野に貢献できる人材を養成するのに対して、「健康医療学科」では東洋医学的な観点から予防医療及び

ケア医療のできる統合医療的な人材育成を目指している。そのために、両学科では、スポーツや西洋医学分野の共通する内容の科目を配置しているが、「健康医療学科」では専門科目において、鍼灸師、アスレティックトレーナー及びリラクゼーション関係等の資格取得に向けたカリキュラムを構築している。

(a) 専任教員

健康医療学科の専任教員は計9名で構成され、その職位は教授5名、講師2名及び助教2名である。専任教員は、医学、農学、工学、健康科学分野における博士号取得者、また医師、管理栄養士、はり師、きゅう師、あん摩マッサージ指圧師の有資格者から構成されており、鍼灸師養成のための専門的な知識や技能を教授し、かつ先端的な医学の知識に基づく教育を行える布陣となっている。また長年に渡って病院及び鍼灸院にて勤務する等、豊富な臨床経験を持つ教員が含まれることから、アカデミズムを基盤とする一方で、十分な技能を持って実社会に貢献できる人材育成を目指した布陣であるといえる。

専任教員の編成

区分	教授	准教授	講師	助教
新規採用	1		1	1
同分野からの異動	4		1	1

(b) 専門科目

専門科目では、医療従事者に必須の知識である「生理学」、「解剖学」、「内科学」、「外科学」、「病理学」等の医学系基礎科目、「東洋医学総論」「はりきゅう理論」「鍼灸臨床実習」等、鍼灸師養成の中核となる科目について、当該分野において臨床及び研究実績が豊富な専任教員を配置している。「栄養」、「運動」といった健康医療分野に深く関わる科目については、専任教員と共に、既設されている健康科学科の医師及び健康科学分野の博士号取得者、アスレティックトレーナー等の教育研究経験が豊富な教員を兼任として配置している。これら兼任教員を配置することにより、鍼灸師に加え、アスレティックトレーナー資格取得を目指す学生に対しても、充実した教育環境を提供できる。また、リラクゼーションやセラピー等の分野においては、専任・兼任教員に加え、豊富な実務及び研究経験を有する兼任教員を配置している。このことにより、学生に対し健康医療に関わる事象に対して多角的かつ質の高い教育を行うことが可能である。

(c) 実務経験者の活用

高度な専門性を有する職業人を養成するという観点から、本学科では実務経験の豊富な人材を配置している。本学科における専任教員9名のうち、4名が実務経験者であり、そ

の内訳は医師1名、鍼灸師3名である。一方で、医師については医学博士号を、さらに実務者でない多数の教員に関しては、当該分野における博士号保有者で、かつ豊富な研究業績を有することから、研究機関としての役割も十分に果たすことができる教員配置となっている。

(d) 研究分野及び研究体制

健康医療学科では、健康医療に対して多角的なアプローチが出来る研究体制及び教員配置となっている。具体的な研究分野としては、生理学、免疫学等の基礎医学分野、経路経穴学、食生活学、運動生理学等の応用医学分野をはじめ、環境生物科学、鍼灸安全管理学、作物学、臨床医学分野等多岐にわたる。研究手法に関しても、疫学、介入実験から生化学及び分子生物学まで幅広く行うことで有用な研究成果が得られると共に、学生に最先端の技術及び知見を享受することができる。これらの研究は、5人の教授を中心に講師、助教が連携協力し行われる。豊富な研究経験を持つ教授陣と、これからの飛躍が期待できる若手教員の組み合わせにより、教育研究水準の維持向上及び教育研究の活性化を図ることができる。

(e) 専任教員の年齢構成

専任教員の年齢構成は以下の通りである。

専任教員の年齢構成

区分	40歳以下	50歳以下	60歳以下	70歳未満
教授		1	1	3
准教授				
講師	1			1
助教	1	1		

豊富な教育研究経験を有する見識高い人材と、長期にわたって継続的に研究教育を実施できる若い人材が配置されており、一貫した教育理念のもと、質の高い教育研究を継続することができる。

なお、就任予定教員で完成年度までに定年規定(学校法人加計学園就業規則・第58条・第2項)に抵触する者については、別紙用紙第3号(その2)「教員の氏名等」で年齢の下に「(高)」をつけている。本学では、同規則・第58条・第3項に基づき、理事会により定年の延長が認められており、調書番号3、調書番号6の教員については、この条項が適用される予定である。

(学校法人加計学園就業規則第58条第3項)

理事長は新たに学校・学部文は学科等を設置する場合又はその他業務上必要とする場合は、理事会の承認を得て、その完成年度終了まで又は業務上必要とするまでの間、関係職員の定年を延長することができる。

カ 教育方法、履修指導方法及び卒業要件

(a) 教育方法

科目の年次配当については、医療従事者として必須である医学系基礎科目(例:生理学、解剖学、東洋医学総論等)を1-2年次に配当し、人体の基本的な構造・機能と疾病の成り立ちについて指導する。その上で、3-4年時での技術実習科目を含めた、実践的な科目により指導することでより効果的な教育を行う。ただし、1年次においても「基礎はりきゅう理論」及び「アスレティックトレーナー概論」等の専門性の高い科目を開講することで、早い段階から職への意識を促すことにも力を注ぐ。

授業方法については教科書、参考書に加えビデオやスライド等を積極的に用いることで、教育効果の高い授業を行う。さらに、専門分野の異なる複数教員によるオムニバス方式の講義科目を開講することで、1つの事象について多角的な視点を養う指導を行う。実習科目では、少人数グループによる技術実習を行うことで、学生あたりの実習機会を増やすと共に、担当教員の巡回によるきめ細かな指導を行う。

(b) 履修指導方法

本学では1年間を前期・後期の2学期に分ける Semester 制を導入している。また、年度開始前に1年間に行われるすべての授業科目の配当年次と開講時期、授業の内容、履修上の注意事項、成績評価方法等が掲載されているシラバスを配布し、より綿密で自由な学修計画を立てられるよう配慮している。

履修指導は、このシラバスをもとに各年次に行う。特に、新入生には入学オリエンテーションの際にカリキュラム編成の考え方、履修内容、履修手続き等についてのガイダンスを行う。履修指導は年度開始時に行うが、この際に卒業に必要な科目、単位数ならびに国家試験受験資格等に必要科目についても丁寧に指導し、学生が主体的に履修計画を立てられるよう、資格取得を目指す履修モデルを提示する。

また、本学ではチューター(学年担任)制を取り入れ、担当した学生の学修生活面での相談指導に当たることとしており、新学科においても、1年次には、履修(単位)登録の方法等についての指導、上級年次においては、履修状況に応じて相談指導を受けられる体制を整備する。また、学生と教員との交流が活発になるようオフィスアワーを導入する。

(c) 卒業要件

卒業の条件は教養科目20単位以上、専攻科目90 単位以上、合計で124単位以上である。

(卒業要件)

区分	教養科目						専攻科目	合計
	文化	社会	自然	総合	外国語	保健体育		
必要単位	上記6 分野から合計20 単位以上 (但し英語 I、II は必修)						90 単位以上	124 単位以上

ただし、はり師きゅう師の国家試験受験のためには、選択必須の科目群の中から、各々に定められたカリキュラムに従って科目を受講し、最終的に所定の単位を取得する必要がある。また、アスレティックトレーナー等の民間資格についても同様である。

履修科目の登録については、1 年間に履修できる上限単位数が48 単位と設定されている。単位は、「授業を受けた時間数」に「学生各自が自主的に授業外で学習した時間数」を加えた総学習時間数に対して与えられるもので、履修科目の予習・復習等の授業外学習の時間を確保するために、健康医療学科も本学の履修上制限を運用する。

(d) 履修モデル

健康医療学科では、はり師きゅう師と共に、アスレティックトレーナーとしてスポーツ分野で貢献できる人材、またアロマセラピスト等のリラクゼーション、薬膳を取り入れた食生活指導等、人の健康保持増進に貢献できる人材の育成を学科の教育目標の一つに掲げている。はり師きゅう師・アスレティックトレーナー(AT)、はり師きゅう師・リラクゼーション関係等の各資格取得を目指す場合の履修モデルを資料として示した(資料1-1及び資料1-2)。

キ 施設、設備等の整備計画

(a) 校地、運動場の整備計画

本学の校地は、岡山県倉敷市連島町西之浦 2640 番地に所在し、水島工業地帯を見渡す小高い丘の上で、緑に囲まれた静閑な教育環境にある。校地面積は 247,668 m²であり、この面積は大学設置基準第 37 条に規定する校地面積の基準(収容定員上の学生 1 人当たり 10 m²) 22,000 m²の 11 倍程度で、新学科を設置しても大学設置基準値を十分確保できる広さである。

主となる校舎として、キャンパス内に図書館、体育館及び厚生会館を含め 25 棟の校舎があり、校舎面積 44,260 m²を有している。これは大学設置基準に規定する校舎面積基準 12,240

m²を約 30,000 m²も越えており、教育・研究には十分な環境である。また、体育関係の授業や課外活動を行う運動場は敷地内に位置する（面積 85,876 m²）。

学生の休憩場所、厚生施設として、開学時より厚生会館(921 m²)の中に学生食堂 537 席、カフェテリア約 20 席、売店（書籍、文具、食料品等）が設けられている。また、新たに学生のための場所として、24 時間開放の学生控室（25 号館）を敷地中央に設けた。

なお、現本学キャンパスと同じ倉敷市連島町西之浦には、旧岡山厚生年金健康福祉センター（愛称：ウエルサンピア倉敷）があるが、平成21年度から倉敷芸術科学大学ヘルスピア倉敷（以下、「ヘルスピア倉敷」という）として施設利用を行っており、キャンパス内のテニスコート、スケート場等でスポーツ実習の授業を実施している。平成23年度以降は健康医療学科の実習等の授業を行う予定である。

倉敷芸術科学大学とヘルスピア倉敷は、一般道路経由でバイクや車を使用すれば所要時間は約5分程度である。また、両施設を巡回する大学バスの運行を予定している。なお、最短の連絡道路として、地元倉敷市と既存の道路の延長工事を計画しており、完成すれば、徒歩で10分以内の移動距離となる。

(b) 校舎等施設の整備計画

現有校舎の面積は既存の学科、専攻の教育研究には十分対応できているが、新学科の教育、特に実習をヘルスピア倉敷の施設内で行うために施設を改修して、附属鍼灸治療院としての臨床実習施設を 1 室、基礎医学実習、実技実習等の実習室 5 室、教室 1 室、更衣室 130 人分、学生休憩所等を設けることとしている。健康医療学科の研究室は、本学キャンパス内の施設を確保しており、専任教員一人当たり 24 m²を基準とする部屋を準備している。

教育上必要な器機器具類として、新学科の授業で使用する筋電計、心電計、滅菌器、消毒器、低周波治療器、標本及び模型等を配備する。

(c) 図書等の資料及び図書館の整備計画

本学図書館は本館のみから成り、総床面積 1,446 m²、収蔵能力 11 万冊、総席数は 252 席（閲覧席 228 席）である。平成 21 年度の所蔵冊数は、図書 70,374 冊、学術雑誌 1,333 種、視聴覚資料 1,214 点である。この内、健康医療学科に関連する図書は和書 2,290 冊、洋書 620 冊、雑誌は和雑誌 360 誌、洋雑誌 230 誌である。なお、新学科では、はり師きゅう師の養成を人材育成の目的の一つとしているため、この分野の専門図書約 400 冊及び学術雑誌 20 誌の整備を予定している。また、新規に点字図書 11 冊を整備する。

なお、本学に隣接するヘルスピア倉敷の施設を使用して、健康医療学科の実習を行うが、授業の開始と共に、それら授業に関連する図書及び雑誌が閲覧できる図書室を設ける予定である。資料 2 に学術雑誌の一覧を示す。

情報検索設備の配備等については、図書館ネットワークを学内 LAN に結ぶことにより、図書の所蔵検索は各研究室の情報端末装置から 24 時間検索可能である。また、データベースの検索は図書館内のインターネット端末で対応しており、各研究室からも利用可能となっている。本学図書館は平成 19 年度より、生命科学部関係の二次資料「医中誌 Web」(国内医学関係 5,000 誌を収録)を利用契約している。引き続き、平成 21 年度より「Web of Science」(世界の主要雑誌 11,000 誌収録)を導入し、定期的に説明利用会を行っている。その他、国立情報学研究所の NACSIS-CAT は加入館すべての図書情報が得られ、国立情報学研究所の図書館間相互貸借サービス利用や文献複写等料金相殺サービス事業へ参加している。他大学との協力については、中国・四国地区大学図書館協議会、私立大学図書館協会にも加盟し、各図書館で閲覧、貸し出しが可能である。また、同一法人校として岡山理科大学、千葉科学大学、姉妹校として吉備国際大学の各図書館と協力支援の関係にある。

本学図書館の閲覧室、閲覧席数、各利用コーナー等、教育研究支援の機能が十分果たせるように整備している。閲覧席は定期試験になると満席に近いが、閑散期のゆとりある状態も考慮すると、席数は十分である。館内には、開放空間を演出するロビーチェアを設け、軽い読書に込めている。

ク 入学者選抜の概要

「健康医療学科」における入学者の選抜については、学科のアドミッションポリシーをもとに、科学的探求心と行動力を備えコミュニケーション能力の豊かな人、人間の健康に関する分野に興味・関心のある人、将来健康医療分野で社会に貢献したい人等を対象としている。そのような意欲のある学生を受け入れるため、AO 入試、推薦入試、一般入試及び社会人・留学生を対象とした特別入試を実施し、入学者選抜試験を行う。その選抜対象及び方法は次の通りである。

(1) AO 入試

本学科に強い入学意思を持つ受験者を対象に書類審査、適格者確認調査及び面談を通じて、目的意識や意欲を持った人材を選抜する。

(2) 推薦入試

高校生活での実績に基づいた推薦により、学部・学科が指定した出願資格を満たし、秀でた能力や業績を持つ生徒を対象に、小論文と面接により適性や意欲を評価する。

(3) 一般入試

学習の基本となる国語、英語、社会（地理・世界史）、理科（化学・生物）、数学の 5 教科のうち 2 科目の学力試験で合否を判定する。各科目とも記述式による解答方式をとる。

(4) 社会人・留学生を対象とした特別入試

社会人・留学生を対象にした選抜方法（社会人入試・私費外国人留学生入試）も予定している。高等学校卒業後の年月の経過等や海外における教育事情の違い等を考慮し、選

抜方法は面接と書類審査により、能力・意欲・適性についての評価を行う。社会人とは、社会人の経験を有し、入学時点で満21歳以上に達する者を対象としている。

健康医療学科では、AO入試・推薦入試の募集定員を20名、一般入試の募集定員を10名、社会人・留学生を対象とした募集定員を若干名として、入学定員30名を選抜する。

ケ 資格取得を目的とする場合

(取得可能な資格)

取得可能な資格	国家資格・民間資格区分	その他
はり師・きゅう師	国家資格	受験資格対応
アスレティックトレーナー	民間資格（日本体育協会）	受験資格対応

コ 実習の具体的計画

実習を円滑に行うため、実習科目担当者からなる「実習委員会」を設置し、実習に関する諸事項の取り決め、実習施設の衛生環境管理、実習計画、事前事後の指導計画、患者の個人情報保護、安全管理、実習教育研究活動を実行するために、適宜、実習委員会を開催する。

(1) 実習先の確保

一般患者に対する臨床実習の機会を確保し、技術等の向上を図ることが必要であり、大学内に実習施設（倉敷芸術科学大学附属鍼灸院：ヘルスピーア倉敷鍼灸ケアセンター）を併設し、当該実習施設において臨床実習を行う。

(2) 個人情報保護及び事故防止

臨床実習の開始前までに、実習委員会が作成する個人情報と事故防止に関するマニュアルを十分に理解させる。医療者としての職業倫理と併せて、個人情報の保護が基本的な人権にかかわる問題であることを徹底して指導する。事故防止については、実習指導教員の監視下のもとで実習実施し、対象者の安全を保証する。

(3) 実習水準の確保の方策

実習委員会において、実習指導教員間での情報交換と相互理解・協力体制を推進し実習水準の確保を行う。また、実習指導教員は鍼灸学会や鍼灸の研修会等に積極的に参加し、最新の知識・技術を習得することで、実習の質の向上を図る。

(4) 実習前の準備状況（感染予防対策・保険等の加入状況）

感染予防対策については、実習前に肝炎抗体検査・ツベルクリン反応検査を行い、陰性判定を受けた学生に対しては、予防接種を実施する。インフルエンザの予防接種についても予防接種を受けるように指導する。

保険については、現在、全学生に対して「学生教育研究災害傷害保険」に加入させているが、健康医療学科ではさらに「学研災付帯賠償責任保険」に加入させる。

(5) 事前事後における指導計画

事前指導としては、臨床実習までに鍼灸の専門理論・専門技術の基礎を身につけさせておく。そのうえで、臨床実習の意義・目的・内容を理解させ、実習に対する意識を高めさせる。医療者としてふさわしい身だしなみ、態度、接遇について指導する。さらに、実習委員会作成の「実習マニュアル」を配布し、学生が自ら実習内容・個人情報保護・事故対策等について確認が出来るようにする。

事後指導としては、実習日誌・レポートを提出させることやプレゼンテーション・グループディスカッション（症例検討）をさせることで、学生自身で問題点を顕在化させ解決出来るように促す。

(6) 成績評価体制及び単位認定方法

実習の評価は、出欠等の状況、取り組む姿勢、レポート、プレゼンテーション・グループディスカッション等を参考にして、実習委員会で検討された基準に従って科目担当者が総合的に評価し、単位認定を行う。

ツ 管理運営

本学の組織は、大学運営を担う法人組織、大学の教育研究を担う教学組織並びに大学運営及び教育研究を支援する事務組織で構成されている。質の高い教育研究を提供し、それを支える健全な財務基盤を構築するために、相互に連携・協力して管理運営にあたっている。そのために、大学協議会、教授会、研究科委員会をはじめとする各種会議体は、それぞれの役割を踏まえて適切に機能し、教育研究の推進に寄与している。こうした取り組みにより、迅速な管理運営と大学改革等に対応できる、より適切な体制を確立している。

(1) 学部教授会の役割とその活動の適切性

大学に関する事項を審議するために学部ごとにそれぞれ教授会を設置しており、「倉敷芸術科学大学学則」及び「倉敷芸術科学大学各学部教授会規程」に基づき、それぞれ専任の教授、准教授、講師、助教を構成員としている。教授会では、それぞれの学部長が議長となり、教育、研究の組織、施設、設備、予算、その他教育・研究に関する事項等について審議しているが、内容については、事前に予算、学務、入試、学生生活等の各種委員会で審議を行い、素案を作成して、教授会に諮っている。

なお、3つの学部間で意見に相違がある場合は、学長、副学長、研究科長、学部長、部長、館長、専攻・学科・別科主任、大学事務局長及びその他協議会が必要と認めた者で構成される倉敷芸術科学大学協議会で審議される。

(2) 学部教授会と学部長との間の連携協力関係及び機能分担の適切性

各学部教授会は、原則として毎月第3水曜日に定例的に召集・開催され、学部長が議長

となり、学則第 9 条に定める事項について審議している。また、各学科会議や学科主任会議も定例的に開催されており、事前協議や議論が行われ、各学部において連携・協力し、分担して運営されている。

(3) 学部教授会と評議会、大学協議会等の全学的審議機関との間の連携及び役割分担の適切性

全学的な諮問機関としては、本学では、学則第 9 条に基づき「倉敷芸術科学大学大学協議会（規程：平成 13 年 4 月施行）」を設置している。協議会は、学長が招集し、原則月 1 回開催され、学長、副学長、研究科長、学部長、部長、館長、専攻・学科・別科主任、大学事務局長、その他協議会が必要と認めた者により構成される。各学部間の調整に関する事項、特に各教授会で一致しなかった議題については、最終調整を行う。

さらに、大学協議会へ上申する教学関係についての調整機関として「倉敷芸術科学大学学部長等会議（申し合わせ：平成 16 年 1 月施行）」を開催し、学内における必要事項や審議事項を調整している。

(4) 各種委員会の役割

本学の将来計画、人権等に関する事項及び教育研究に関する事項は、最初に各種委員会で協議し、その結果は大学協議会、教授会、研究科委員会で最終的に審議・決定される。各種委員会は、各学科・専攻から推薦された助教以上の専任教員で構成されており、学務委員会、大学院委員会等の教学面の協議が中心となる委員会は毎月 1 回定期開催している。

大学の組織については、資料 3 に大学運営組織図を示した。

テ 自己点検・評価

平成 7 年 4 月、芸術学部、産業科学技術学部、教養学部の 3 学部で設立された本学は、開学時に学長を委員長とする自己評価委員会を設置した。

委員会の発足と同時に、委員会の実質的な機能を図るため、「倉敷芸術科学大学自己評価委員会規程」を定めた。この規程により、自己評価委員会の具体的な運営が開始された。この時の運営の骨子として、(1) 自己点検・自己評価の実施に関すること。(2) 自己評価の実施及びその結果の公表並びに改善に関すること。(3) その他自己評価に関し必要な事項等を、審議事項として規程の第 6 条に明記した。この自己点検・評価の実施に向けては、関連した各種委員会において当該事務部署における分掌が確立されている。その各種委員会は、学生生活委員会・就職委員会・入試委員会・入学委員会・広報委員会・留学生委員会・図書委員会・紀要委員会・学務委員会・教育環境整備委員会・大学院委員会である。各種委員会の構成員は、各学部・学科・大学院から選出されている。自己評価委員会を中心として、各種委員会が役割を分担することにより、平成 13 年に大学基準協会に加盟判定

審査を申請して、「正会員」として認定されたことを契機として、自己点検・評価活動がより活発化してきた。

具体的には、従来の自己評価委員会を母体とした教育研究委員会を平成13年度に新設し、全学的かつ組織的に改善・改革を推進してきた。自己評価委員会が全学的な意思決定機関として機能し、実際に自己点検・評価の作業を行う委員会を教育研究委員会と位置付けた。さらに、委員会組織だけではなく、自己点検・評価を推進する部署として、平成17年度には教育研究支援センターが開設された。このセンターは、本学の教育研究水準の向上を図り、かつ教育研究機関としての社会的使命の達成に貢献するために、自己点検・評価はもとより、FD活動全般の推進を主たる業務内容としている。

このように、自己評価委員会、教育研究委員会、教育研究支援センターが三位一体となったシステム（組織体制）が構築されてきている。そして、点検・評価活動をまとめた年次報告書の作成を通して、教職員の意識改革を促す目的で、平成13年度から『FD活動報告書』が毎年刊行されている。一方、『大学教育・研究業績調査票』は、最初に平成16年3月に発刊されており、本学の専任教員全員の略歴、専門分野、教育活動、研究活動、学外活動及び自己分析の各項目について、基本的には3年サイクルで、最新版では平成22年3月に刊行されている。このように、『FD活動報告書』と『大学教育・研究業績調査票』を定期的に刊行することにより、教職員の教育研究に対する意識改革を図っている。

認証評価機関による第三者評価については、平成21年度に学長を委員長とする認証評価特別委員会を設置して準備を進め、平成22年度受審のために大学基準協会に認証評価報告書を既に提出している。本学では、平成22年度の認証評価を受けるにあたり、各種規定の整備ならびに管理、運営体制の見直しを行った。その中で、大学の活動評価を行うための自己評価委員会の必要性を再認識し、平成22年度より“産学官”の外部評価委員を加え、年3回（5月、9月、3月）自己評価委員会を実施することとなった。各種委員会で目標設定を行い、そのための方策の提示、中間検証、最終検証、次年度の目標設定・具体的な方策提示等、PDCAサイクルのもと、平成22年度の点検評価活動を継続中である。

なお、評価項目としては、「理念・目的」、「教育研究組織」、「教育内容・方法」、「学生の受け入れ」、「学生生活」、「研究環境」、「社会貢献」、「教員組織」、「事務組織」、「施設・設備」、「図書・電子媒体等」、「管理運営」、「財務」、「点検・評価」、「情報公開・説明責任」である。

ト 情報の提供

大学が高い公共性を有する機関であることに鑑み、大学として社会に対する説明責任を果たす意味でも、適切な方法で積極的に情報公開を行う必要がある。その際には、個人情報等に関して保護すべき情報と公開すべき情報を峻別した上で、情報公開手段として有力とされるホームページや広報誌の内容充実を図るための組織体制を整備している。

大学のミッション（社会的使命）、アドミッションポリシー（入学者受け入れ方針）、カリキュラムポリシー（教育課程の編成方針）及びディプロマポリシー（卒業認定・学位授与に関する方針）、学部等の教育理念・教育目標、カリキュラム、シラバス、学則等各種規定等の基本的な情報は大学ホームページや、製本形式としての「学生便覧」及び「授業計画」等において情報公開している。また、大学の基本的な情報（定員、学生数、教員数等）は、本学の母体である学校法人加計学園のホームページで開示している。

教員の研究活動に関する情報の提供として、専任教員のプロフィール、研究成果等は「大学教育・研究業績調査票」として製本形式にて3年毎に作成し、学内はもとより岡山県内外の近隣大学や公共機関へ送付し情報開示している。また、教員の研究活動は本学紀要（倉敷芸術科学大学紀要）に原著論文と共に巻末に学内外活動の記録の項を設けて発刊し、交換図書、寄贈図書として関係施設・機関へ送付している。

自己点検報告書、設置認可申請書、設置届出書等の情報提供については、平成22年度の第三者認証評価受審を機に情報開示について検討を行う。

ナ 授業内容方法の改善を図るための組織的な取組

本学では平成7年の開学以来、教育研究の向上を図るために、継続的な自己点検・評価に取り組んできている。平成13年度には、より良い教育研究環境を構築するために教育研究委員会を新設し、さらに全学的・組織的なFD活動を積極的に推進するために、平成17年度に教育研究支援センターを設置した。

FD活動は、この教育研究支援センターと全学部学科及び事務局で厚生されている教育研究委員会にて検討を行い実行している。具体的には外部の他分野の講師によるFD講演会、学生による授業アンケート、教員同士による授業公開を実施している。つまり、外部、学生、教員同士による3方向からの教育力の向上を図れる体制を構築している。学生による授業評価アンケートは、教育研究委員会が全学的に共通の質問項目で実施しており、その結果は該当教員に配布されると共に、学生、教職員が誰でも閲覧できるように教育研究支援センター及び図書館で開示している。また、個々の教員は配布されたアンケート結果に応じて、「授業改善に向けた今後の対応」や「要望・提言」等をまとめて教育研究委員会へ提出するようになっている。このような組織的な取り組みを通じて、教員は授業改善に取り組んでいる。

なお、平成7年の開学に伴い施行された「倉敷芸術科学大学自己評価委員会規定」に基づく教育改善に繋げていくための授業評価等の実施状況の経緯を資料4に示した。

ニ 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制

○ 大学及び学部等の教育上の目的に応じた社会的・職業的自立に関する指導及び体制に関する取り組みについて（大学設置基準第42条の2）

(1) 教育課程内の取り組みについて

本学は「ひとりひとりの若人が持つ能力を最大限に引き出し、技術者として、社会人として、社会に貢献できる人材を養成する」という建学の理念に基づき、学生が在学中に自ら勤労観と職業観を身につけられるように、全学共通の教養科目群に、キャリア科目を配置している。1年次に開講する「人生と仕事Ⅰ」では、就業の意識を高め、哲学的レベルから仕事の意味を考察させ、人生設計を描くことを指導している。2年次に開講する「人生と仕事Ⅱ」では、職業意識や社会的な常識・マナーについて、3年次の「キャリア・ラーニング」では、就職試験対策を行っている。また、2年次に開講する「キャリアチャレンジⅠ」、「キャリアチャレンジⅡ」では、学外での職務体験を含むプロジェクトに対して、学生が自ら進んで企画運営に携わることで、働くことの意義を実感し、将来の人生設計に役立てられるように指導を行っている（資料5、シラバス参照）。

(2) 教育課程外の取り組みについて

学生の社会的及び職業的自立を図るために必要な能力を培うための取り組みとして、教育課程外の取り組みとして、事務組織には、就職部を配置している。また、各学科の教員を就職委員として任命している。

就職部では、学期の最初に開催されるオリエンテーションにおいて、各学年に段階的に進む進路・就職の支援について説明し、就業に対する意識の高揚を図っている。3年次生については、就職活動の準備として年間15回の就職ガイダンスを行っている。このガイダンスは、企業の採用活動状況の解説に始まり、業界研究、ビジネスマナー講座、エントリーシート対策、公務員対策講座等、学生の要望に応じた多岐にわたる内容で構成されている。またガイダンスの進行に合わせて、職業適性検査、SPI模擬試験、公務員試験対策講座等を開催している。2月には学内において企業の採用担当者と3年次生が直接面談を行う合同会社説明会を開催している（資料6、就職指導年間計画）。4年次生については、求人情報の検索、履歴書指導、エントリーシート対策、面接指導等個々の学生の要望にあわせた指導の他、随時、学内企業説明会を開催している。

(3) 適切な体制の整備について

学生の社会的及び職業的自立を図るために必要な能力の育成に向けて、教育課程内外にわたる社会的・職業的自立に関する指導等の実施に向けた体制として、大学の運営委員会に就職委員会を設置している（資料3、大学組織図）。就職委員会は、学部長、大学院研究科主任、大学院専攻科主任、教職学芸員課程主任、及び、各学科代表の教員からなる委員と、学生部、教務部、就職部、インターナショナルセンターの事務組織の代表によって構成されている。就職委員会では、就職指導、求人開拓、学内会社説明会の企画等、学生の

進路指導全般について、計画、審議している（資料7、資料就職委員会規定）。就職委員には、求人情報、学生の活動状況や内定状況等の就職情報が就職部を通して発信され、事務組織と教員とが緊密な連携を取って学生指導に当たる体制が整っている。

年次	1年時			2年時			3年時			4年時			合計			
	科目名	単	資格	科目名	単	資格	科目名	単	資格	科目名	単	資格				
教養	英語I・IIを含む20単位以上															
専門	科目名	単	資格	科目名	単	資格	科目名	単	資格	科目名	単	資格				
			鍼灸 AT			鍼灸 AT			鍼灸 AT			鍼灸 AT				
	生理学	2	●		健康科学	2	●		一般救急救命	2	●	△	鍼灸臨床実習Ⅲ(通年)	2	●	
	生理学実習	1	●		栄養学概論	2	●		関係法規	2	●		鍼灸臨床実習Ⅳ(通年)	2	●	
	機能的解剖学	2	●	△	運動生理学	2	●		外科学Ⅰ(総論)	2	●	△	スポーツ社会学	2		△
	解剖学実習	1	●	△	内科学Ⅰ(総論)	2	●		応用はりきゅう理論	2	●		スポーツ指導論Ⅰ	2		△
	生化学	2	●		基礎経穴	2	●		東洋医学各論Ⅲ	2	●		スポーツ指導論Ⅱ	2		△
	衛生学・公衆衛生学	2	●		東洋医学各論Ⅰ	2	●		鍼灸治療所実習Ⅰ(通年)	2	●		スポーツ心理学	2		△
	経絡経穴概論Ⅰ	2	●		東洋医学各論Ⅱ	2	●		鍼灸診察法Ⅱ(通年)	2	●		アスレティックリハビリテーション実習	2		△
	経絡経穴概論Ⅱ	2	●		レディース鍼灸学	2	●		鍼灸治療所実習Ⅱ(通年)	2	●		アスレティックトレーナー実習Ⅰ	2		△
	東洋医学総論Ⅰ	2	●		スポーツ鍼灸学	2	●		学外関連施設見学実習	1	●		アスレティックトレーナー実習Ⅱ	2		△
	東洋医学総論Ⅱ	2	●		社会はりきゅう学	2	●		脳外科学	2	●		アスレティックトレーナー実習Ⅲ	2		△
	基礎はりきゅう理論	2	●		鍼灸臨床実習Ⅰ(通年)	2	●		スポーツ医学Ⅱ	2	●	△	バイオメカニクス	2		△
	基礎はり実技(通年)	2	●		鍼灸臨床実習Ⅱ(通年)	2	●		スポーツ医学Ⅲ	2	●	△	卒業研究(通年)	6		
	基礎きゅう実技(通年)	2	●		鍼灸診察法Ⅰ(通年)	2	●		テーピング理論(実習含む)	2		△				
	スポーツ指導者基礎	2		△	病理学	2	●		アスレティックリハビリテーション理論	2		△				
	アスレティックトレーナー概論	2		△	生活習慣病予防	2	●		トレーニング科学	2		△				
	体表解剖学	2		△	スポーツ医学Ⅰ	2	●	△	体力測定法(実習含む)	2		△				
					スポーツトレーニング理論	2		△	ストレッチ理論(実習含む)	2		△				
					運動負荷試験(実習含む)	2		△	スポーツ栄養学	2		△				
					スポーツコンディショニング理論	2		△								
				スポーツ障害論	2		△									
単位数	30			40			35			28			132			

【卒業要件】 教養科目20単位以上 専門科目90単位以上 計 124単位以上

は共通専門科目(卒業要件:20単位以上取得)

年次	1年時			2年時			3年時			4年時			合計	
	科目名	単	資格	科目名	単	資格	科目名	単	資格	科目名	単	資格		
教養	英語I・IIを含む20単位以上													
専門	科目名	単	資格	科目名	単	資格	科目名	単	資格	科目名	単	資格		
			鍼灸 AT			鍼灸 AT			鍼灸 AT			鍼灸 AT		
	生理学	2	●	健康科学	2	●	関係法規	2	●	鍼灸臨床実習Ⅲ(通年)	2	●		
	生理学実習	1	●	栄養学概論	2	●	外科学Ⅰ(総論)	2	● △	鍼灸臨床実習Ⅳ(通年)	2	●		
	機能的解剖学	2	● △	環境リスク論	2		メンタルヘルス	2		卒業研究(通年)	6			
	解剖学実習	1	● △	運動生理学	2	●	応用はりきゅう理論	2	●					
	生化学	2	●	内科学Ⅰ(総論)	2	●	東洋医学各論Ⅲ	2	●					
	健康管理概論	2		基礎経穴	2	●	鍼灸診察法Ⅱ(通年)	2	●					
	衛生学・公衆衛生学	2		東洋医学各論Ⅰ	2	●	鍼灸治療所実習Ⅰ(通年)	2	●					
	バイオサイエンス	2		東洋医学各論Ⅱ	2	●	鍼灸治療所実習Ⅱ(通年)	2	●					
	経絡経穴概論Ⅰ	2	●	レディース鍼灸学	2	●	学外関連施設見学実習	1	●					
	経絡経穴概論Ⅱ	2	●	スポーツ鍼灸学	2	●	ウエイトコントロール論	2						
	東洋医学総論Ⅰ	2	●	社会はりきゅう学	2	●	健康食品学	2						
	東洋医学総論Ⅱ	2	●	鍼灸臨床実習Ⅰ(通年)	2	●	セラピー論	2						
	基礎はりきゅう理論	2	●	鍼灸臨床実習Ⅱ(通年)	2	●	リラクゼーション論	2						
	基礎はり実技(通年)	2	●	鍼灸診察法Ⅰ(通年)	2	●	アロマセラピー	2						
	基礎きゅう実技(通年)	2	●	漢方学	2		中医栄養学	2						
	ヒーリング実習	2		病理学	2	●	中医栄養学実習	2						
	化粧品科学	2		生活習慣病予防	2	●	植物機能学	2						
				ボディケア	2		植物成分分析実験	2						
				ボディケア実習	2		栽培学	2						
				スポーツ医学Ⅰ	2	●	栽培学実習(通年)	2						
							脳外科学	2	●					
							スポーツ医学Ⅱ	2	●					
							栄養指導論	2						
	単位数		32			40			45				10	127

【卒業要件】 教養科目20単位以上 専門科目90単位以上 計 124単位以上

は共通専門科目(卒業要件:20単位以上取得)

学術雑誌一覧

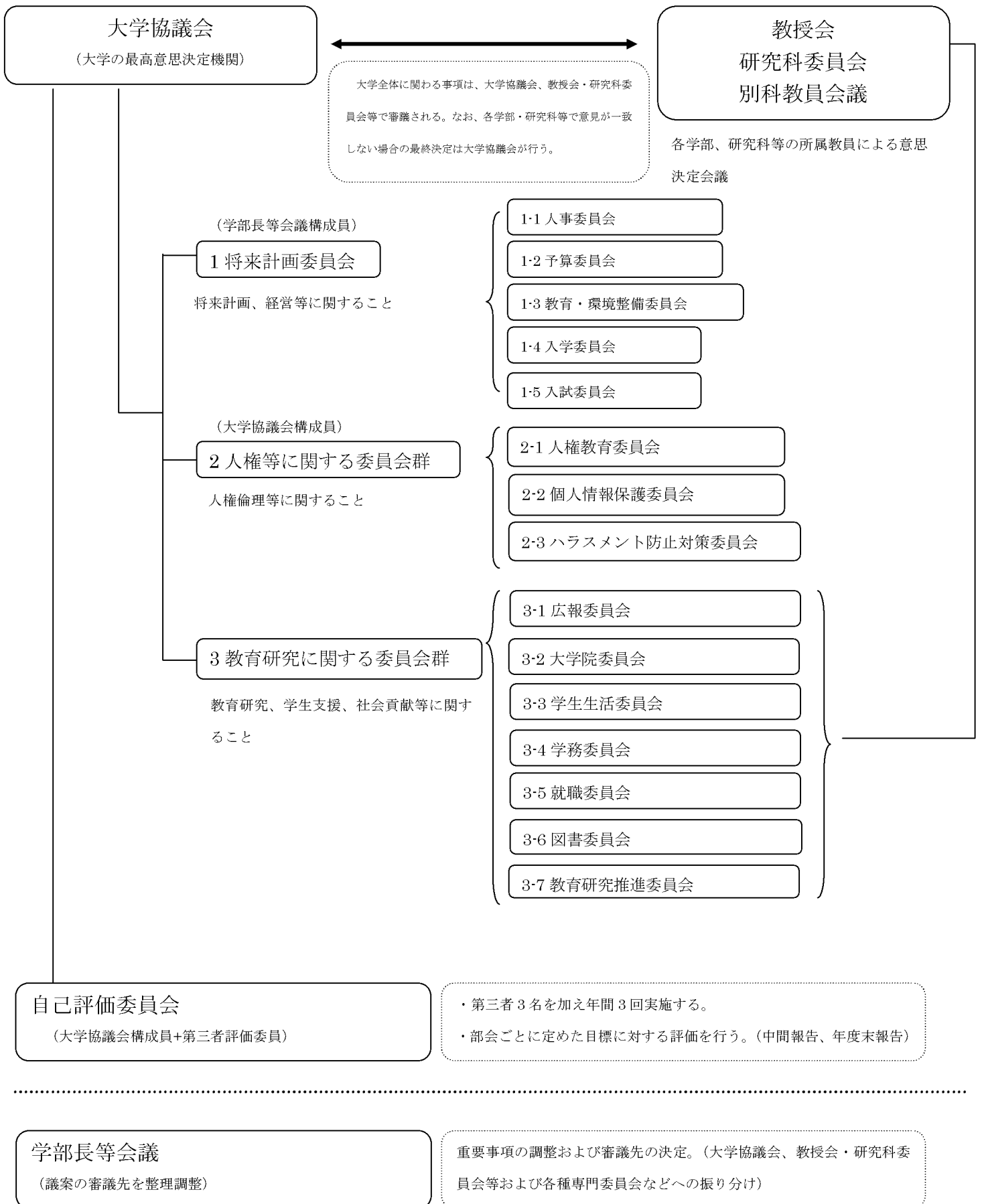
【資料2】

【洋雑誌】

- 1 American Journal of Sports Medicine / American Orthopaedic Society
- 2 American Journal of the Medical Science, N.S. / Southern Society for Clinical Investigation
- 3 Journal of Physiology / Physiological Society
- 4 Journal of Applied Physiology / American Physiological Society
- 5 American Journal of Clinical Nutrition / American Society for Nutrition
- 6 Journal of Nutrition / American Society for Nutrition
- 7 Journal of Applied Biomechanics / Human Kinetics
- 8 American Journal of Epidemiology / Oxford Journals
- 9 Nature Reviews Neuroscience Nature Publishing Group
- 10 American Journal of Clinical Pathology / American Society for Clinical Pathology
- 11 Journal of Sports Medicine and Physical Fitness / Minerva Medica
- 12 Sports Medicine : an International Journal of Applied / ADIS Press
- 13 Medicine and Science in Sports and Exercise / American College of Sports Medicine

【和雑誌】

- | | |
|----------------|---------------|
| 1 臨床スポーツ医学 | 文光堂 |
| 2 日本医事時報 | 日本医事新報社 |
| 3 最新医学 | 最新医学社 |
| 4 病理と臨床 | 文光堂 |
| 5 生体の科学 | 医学書院 |
| 6 公衆衛生 | 医学書院 |
| 7 厚生指標 | 厚生統計協会 |
| 8 保健の科学 | 厚生統計協会 |
| 9 救急医学 | へるす出版 |
| 10 臨床栄養 | 医歯薬出版 |
| 11 体育学研究 | 日体体育学会 |
| 12 体育の科学 | 杏林書院 |
| 13 成人病と生活習慣病 | 東京医学社 |
| 14 スポーツメディスン | ブックハウス・エイチディー |
| 15 最新精神医学 | 世論時報社 |
| 16 理学療法ジャーナル | 医学書院 |
| 17 総合ケア | 医師薬出版 |
| 18 神経内科 | 科学評論社 |
| 19 作業療法 | 協同医書出版社 |
| 20 骨・関節・靭帯 | アークメディア |
| 21 漢方と最新治療 | 世論時報社 |
| 22 福祉／月刊 | 全国社会福祉協会 |
| 23 月刊 手技療法 | 谷口書店 |
| 24 臨床雑誌 整形外科 | 南江堂 |
| 25 日経Health | 日経BPマーケティング |
| 26 こころの科学 | 日本評論社 |
| 27 作業療法ジャーナル | 三輪書店 |
| 28 脊椎脊髄ジャーナル | 三輪書店 |
| 29 関節外科 | メジカルビュー社 |
| 30 老年医学 | ライフサイエンス |
| 31 鍼灸 OSAKA | 森ノ宮医療学園出版 |
| 32 医道の日本 | 医道の日本社 |
| 33 全日本鍼灸学会雑誌 | 全日本鍼灸学会 |
| 34 東洋医学鍼灸ジャーナル | 緑書房 |



倉敷芸術科学大学での授業評価の取り組み

【資料4】

平成 13 年後期	一部の学生（195 名）を対象に授業評価を試行。
平成 14 年前期	<p>現行の授業評価システムの確立</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己評価委員会の下部組織にあたる教育研究委員会が実施する。 ・対象科目は、オムニバス形式の科目、実技科目および遠隔授業、大学院／留学生別科の開講科目を除く全開講科目。通年制科目は後期に実施する。 ・評価結果は教員個人宛に返却する。
	授業評価の集計結果を「芸科大通信」で保護者と学生に公表（現在まで継続中）
平成 15 年後期	<p>4 種の授業（複数教員が協同で担当している科目、体育実技、TV 会議システムを利用した遠隔授業の各開講科目、およびゼミ）について、それぞれの授業形態に即した質問項目からなるアンケートを作成・実施。</p>
	事務部門に対する学生評価実施。
平成 16 年後期	授業評価の活用状況および今後のアンケート内容の方向性の参考資料収集のために教員を対象としたアンケートを実施。集計結果を改善の参考資料として教員に配布。
平成 17 年度前期	平成 14－16 年度のアンケート結果を総括した結果（詳細は『倉敷芸術科学大学 平成 16 年度 FD 活動報告書』）に基づき、授業内容をより的確に評価するために項目の全面的見直し。
平成 17 年度後期	実技系実習科目と講義科目用のアンケート項目を作成・実施。
平成 18 年度後期	講義科目用アンケート、芸術系実技科目用アンケート、体育系実技科目（教養科目の体育実技を含む）用アンケートの 3 種を作成・実施。
	授業評価結果を学生に開示。
	授業評価が好結果の一部科目を公開授業科目として指定。（現在まで継続中）
平成 19 年度前期	質問項目の一部字句修正。
平成 20 年度前期	授業評価結果返却時に教員に、アンケート結果に応じてどのように改善を行うのかを具体的に記す改善書類を配布。提出は任意、公開しないとの前提。
平成 20 年度後期	教員による授業改善計画を全員提出とする。学生に公開。

シラバス

【資料5】

科目名	年次	開講期	対象クラス	授 業 計 画 (テ ー マ)	
人生と仕事Ⅰ	1	前	16生のみ	■授業計画	
担当教員	大杉 忠則			第1週	4/14 (水) ガイダンスとアンケート<大杉 忠則>
■授業の概要	当講義は、受講者に就職への適切な意識を早期に持たせることを目的とする。先ず初めに、「人が生きるとはどういうことなのか」を考えさせ、次に「働くとはどういうことを意味するのか、何のために働くのか」を考えさせる。その上で「人生と仕事はいついどう結びつくのか」について考えさせかつ学ばせる。当科目の授業は一貫した全体内容を、各回の授業でそれぞれの分野の講師が分担し、リレー方式で実施する。			第2週	4/21 (水) 大学に学ぶ意味を考える<土井 章>
■到達目標	仕事に対する適切な意識を習得する。			第3週	4/28 (水) 生きることと働くことについて<田村 鎮男>
■授業外学習	予習・復習の内容については、授業中に指示する。			第4週	5/12 (水) 私とガラス<外部講師>
■評価方法	下記の内容にて総合的に評価する。 ・平常点(各授業時の小レポート等) 80% ・期末レポート 20%			第5週	5/19 (水) どんな仕事と働き方があるのか<外部講師>
■注意事項	学生便覧の就職関連「将来に向けて」を熟読すること。			第6週	5/26 (水) 私の生きてきた道<外部講師>
教科書	適宜指示する。			第7週	6/ 2 (水) 人生の主人公は自分しかない<ベネッセ>
参考書等	授業時に適宜紹介する。			第8週	6/ 9 (水) 大学生活を充実させよう<ベネッセ>
				第9週	6/16 (水) 将来の活躍をイメージしよう<ベネッセ>
				第10週	6/23 (水) 目標設定と行動計画<ベネッセ>
				第11週	6/30 (水) 社会人としてのマナーの知識と実践Ⅰ<外部講師>
				第12週	7/ 7 (水) 社会人としてのマナーの知識と実践Ⅱ<外部講師>
				第13週	7/14 (水) 企業の求める人間像Ⅰ<外部講師>
				第14週	7/21 (水) 企業の求める人間像Ⅱ<外部講師>
				第15週	7/28 (水) 期末レポート<大杉 忠則>

科目名	年次	開講期	対象クラス	回数	授 業 計 画 (テ ー マ)
人生と仕事Ⅱ	2年	前期	15のみ	■授業計画	
担当教員	藤高 邦宏			第1週	4/14 (水) ガイダンス <藤高 邦宏>
■授業の概要	「人生と仕事Ⅰ」で就職への意識をもった上で、将来の仕事、職種を考え、その準備内容を知り、その業界の知識を得る。授業は、一貫した全体内容を、各講師がリレー方式で実施する。			第2週	4/21 (水) 自分の望む仕事と自己実現について<学外講師>
■到達目標	「どんな仕事をしたいのか」「何を準備すべきか」「業界の様子はどうか」「自己実現への方法」等をしっかり考える。併せて、就職活動に必要な自己表現力や社会人としてのマナー等をも身につける。総じて「社会人基礎力」を身につけるべく努める。			第3週	4/28 (水) 魅力ある企業の選択について<学外講師>
■授業外学習	受講後、レジュメを見ながら何を学んだのか、何を得たのかを考える。次の授業前に、『授業計画』を予め読んでおくこと。			第4週	5/12 (水) 就職への準備(文章作法を含む)<山寄 宏暉>
■評価方法	平常点(授業への取り組み姿勢・各授業時の小レポート等)50%、期末レポート50%の割合で評価する。			第5週	5/19 (水) 就職への心得(マナーを含む)<学外講師>
■注意事項	・授業時に配布された資料等は、ファイルしておくこと。 ・遅刻、私語、他者に迷惑な行為は厳禁とする。 ・“自らの三原則”-自ら「考え」、自らの手で「解き」、自らの「策をもつ」ことが目標達成や向上のための鉄則である。			第6週	5/26 (水) プレゼンテーション・スキル<学外講師>
教科書	授業時にレジュメのプリント等を配布する。			第7週	6/ 2 (水) 業界研究Ⅰ(印刷・グラフィックデザイン)<大林 誠>
参考書等	授業時に適宜紹介する。			第8週	6/ 9 (水) 業界研究Ⅱ(情報・IT)<村山 公保>
				第9週	6/16 (水) 業界研究Ⅲ(化学・食品・薬品)<岡 憲明>
				第10週	6/23 (水) 業界研究Ⅳ(理系研究職への道)<河邊 誠一郎>
				第11週	6/30 (水) 業界研究Ⅴ(観光・旅行)<学外講師>
				第12週	7/ 7 (水) 業界研究Ⅵ(仕事とスポーツについて)<学外講師>
				第13週	7/14 (水) 業界研究Ⅶ(事業経営のこころ<大原聡一郎の教え><学外講師>
				第14週	7/21 (水) 企業の採用スケジュール及び選考について<学外講師>
				第15週	7/28 (水) 総まとめ(レポートを含む)<藤高 邦宏>

科目名				年次	開講期	対象クラス	授 業 計 画 (テ ー マ)		
キャリア・ラーニング				2	前	14生のみ	■授業計画		
担当教員	中本 太一、津野熊 総一郎、大野 英志、 時任 英人、岡野 喜良							1. ガイダンス (中本) 2. 数学 (中本) 数的処理 3. 数学 (中本) 数的処理 4. 数学 (中本) 数的処理 5. 数学 (中本) 判断推理、知能問題 6. 数学 (中本) 判断推理、知能問題 7. 数学 (中本) 総合演習 8. 国語 (津野熊) 文章読解、漢字、語句、ことわざなど 9. 国語 (津野熊) 論作文 10. 英語 (大野) ことわざ、英文読解など 11. 英語 (大野) 英文読解 12. 一般常識 (時任) 時事、政経、地理・歴史、雑学など 13. 一般常識 (時任) 時事、政経、地理・歴史、雑学など 14. 一般常識 (岡野) 時事、政経、地理・歴史、雑学など 15. 総復習・まとめ (中本)	
■授業の概要 この科目は、就職筆記試験の受験対策としての講義と演習を行うことを目的とする(ただし、水曜日3限クラスは、数学が得意でない者を対象とする)。 最近の就職選考においては、第一に筆記試験を課し、この試験を通過した少数の者に対してきめ細やかな面接を行うのが普通である。この筆記試験をパスするのが、最初の関門なのである。 最近の就職試験は、SPIと呼ばれる形式の試験が中心である。この試験は、半分が非言語能力検査(数学)で残りの半分が言語能力検査(国語)である。数学の内容は、方程式の文章題などであるが、1題を1分弱ぐらいの時間で解かなくてはならないため、合格点に達することは学生諸君が想像する以上に難しい。 したがって、学生諸君は早い時点から十分な時間をかけて準備しておく必要なのである。当講義は、学生諸君が自ら筆記試験対策の勉強を始めるきっかけを与えることをねらいとするものである。 ■到達目標 社会人への条件である社会常識と日常に必要な学問的知識を得ることを目標とする。 ■授業外学習 毎日、新聞を読むこと。SPIの本で日常的に学習し、計算に慣れること。 ■評価方法 授業に取り組む姿勢およびテストにより評価する。なお、授業中の緊張感を高めて効果を上げるため、授業中の私語、居眠りの目立つ者は退室してもらい、評価の対象外とするので、注意されたい。 ■評価方法 授業に取り組む姿勢およびテストにより評価する。なお、授業中の緊張感を高めて効果を上げるため、授業中の私語、居眠りの目立つ者は退室してもらい、評価の対象外とするので、注意されたい。 ■注意事項 4月中に実施する振り分けテスト(時間・教室は掲示にて通知)を受験することが義務付けられる。このテストの結果により数学が得意でないと判定された者は、原則として「水曜日3限」を受講し、この点数が一定水準以上の者は「水曜日4限」を受講するものとする。 なお、(単位は取れないが)4年生がこの科目を受講することは可能である。									
教科書	最新最強のSPIクリア問題集 '10年版 (成美堂出版)								
参考書等	授業時に適宜紹介する。								

科目名	年次	開講期	対象クラス	回数	授業計画 (テーマ)
キャリア・チャレンジⅠ	2	前	15以前		
担当教員	小山 悦司				
■授業の概要 自立的かつ挑戦的プログラムとして、受講生が主体的に取り組む科目である。各プロジェクトで、学内外の人々の指導を受けながら「職務体験」を行い、働くことの意味・意義を実感し、将来の職業を含めた人生設計（キャリア・デザイン）に役立ててもらいたい。何事にも失敗を恐れず、チャレンジする姿勢や態度が求められる。					
■到達目標 ・キャリア形成に関する基礎理論を習得する。 ・学外での職務体験を通じて仕事の意義と重要性を理解する。 ・失敗を恐れずチャレンジする力を育成する。 ・職務体験を通じて、課題を発見し、データを収集分析して、改善策を提示できる能力を育成する。 ・チームで働く力（チームワーク）を育成する。 ・計画力、創造力、問題解決能力などの力を育成する。					
■授業外学習 課題レポート（計3回）の作成や授業外学習の具体的な内容・方法については、初回のガイダンスⅠにおいて詳しく説明する。					
■評価方法 プロジェクトに取り組む姿勢および参加状況（60%）、レポート（40%）で総合的に評価する。なお、ガイダンス、報告会、反省会とプロジェクト活動をあわせて30時間以上が必要となる。 レポート1・2（20%）、レポート3（20%）					
■注意事項 フィールドワーク（学外での職務体験）を中心とした実習科目のため、自主的かつ積極的な姿勢が必要とされる。ガイダンス等には必ず出席の上、プロジェクト活動に従事し、レポート（3回）を提出すること。 学外での活動のため、特に厳格な指導を行う。詳細については、初回のガイダンスⅠで説明する。					
教科書	特に使用しない。				
参考書等	適宜指示する。				
				■授業計画 1. ガイダンスⅠ：趣旨・内容等の説明 2. ガイダンスⅡ：職務体験の意味説明・マナー指導等も含む ※レポート1「職務体験実施計画書」提出 3. ガイダンスⅢ：職務体験実施計画の実施に向けて 4. 各プロジェクトで活動一企画運営等の実地活動（1） 5. 各プロジェクトで活動一企画運営等の実地活動（2） 6. 各プロジェクトで活動一企画運営等の実地活動（3） 7. 各プロジェクトで活動一企画運営等の実地活動（4） 8. 各プロジェクトで活動一企画運営等の実地活動（5） 9. 各プロジェクトで活動一企画運営等の実地活動（6） 10. 各プロジェクトで活動一企画運営等の実地活動（7） 11. 各プロジェクトで活動一企画運営等の実地活動（8） 12. 各プロジェクトで活動一企画運営等の実地活動（9） ※レポート2「職務体験実施報告書」提出 13. 報告・反省会Ⅰ 14. 報告・反省会Ⅱ 15. ※レポート3「職務体験総合レポート」提出、総復習・まとめ ①キャリア・チャレンジのⅠだけ、あるいはⅡだけの履修も可能である。 ②キャリア・チャレンジのⅠとⅡは、どちらから履修してもよい。 ③キャリア・チャレンジのⅠとⅡの活動内容は重複しないこと。 ④各プロジェクトには、原則として指導教員を配置する。 ⑤各プロジェクトには、学生代表を置く。 ⑥各プロジェクトには、地域の指導者及びサポーターを加えることができる。 ⑦他の授業等に支障のない時期（土日、長期休業中等）に学外活動を行うこと。 ⑧夏期休業中に活動する場合は、遡って単位認定を行うことがある。	

科目名	年次	開講期	対象クラス	回数	授業計画 (テーマ)
キャリア・チャレンジⅡ	2	後	15以前		
担当教員	小山 悦司				
■授業の概要 自立的かつ挑戦的プログラムとして、受講生が主体的に取り組む科目である。各プロジェクトで、学内外の人々の指導を受けながら「職務体験」を行い、働くことの意味・意義を実感し、将来の職業を含めた人生設計（キャリア・デザイン）に役立ててもらいたい。何事にも失敗を恐れず、チャレンジする姿勢や態度が求められる。					
■到達目標 ・キャリア形成に関する基礎理論を習得する。 ・学外での職務体験を通じて仕事の意義と重要性を理解する。 ・失敗を恐れずチャレンジする力を育成する。 ・職務体験を通じて、課題を発見し、データを収集分析して、改善策を提示できる能力を育成する。 ・チームで働く力（チームワーク）を育成する。 ・計画力、創造力、問題解決能力などの力を育成する。					
■授業外学習 課題レポート（計3回）の作成や授業外学習の具体的な内容・方法については、初回のガイダンスⅠにおいて詳しく説明する。					
■評価方法 プロジェクトに取り組む姿勢および参加状況（60%）、レポート（40%）で総合的に評価する。なお、ガイダンス、報告会、反省会とプロジェクト活動をあわせて30時間以上が必要となる。 レポート1・2（20%）、レポート3（20%）					
■注意事項 フィールドワーク（学外での職務体験）を中心とした実習科目のため、自主的かつ積極的な姿勢が必要とされる。ガイダンス等には必ず出席の上、プロジェクト活動に従事し、レポート（3回）を提出すること。 学外での活動のため、特に厳格な指導を行う。詳細については、初回のガイダンスⅠで説明する。					
教科書	特に使用しない。				
参考書等	適宜指示する。				
				■授業計画 1. ガイダンスⅠ：趣旨・内容等の説明 2. ガイダンスⅡ：職務体験の意味説明・マナー指導等も含む ※レポート1「職務体験実施計画書」提出 3. ガイダンスⅢ：職務体験実施計画の実施に向けて 4. 各プロジェクトで活動一企画運営等の実地活動（1） 5. 各プロジェクトで活動一企画運営等の実地活動（2） 6. 各プロジェクトで活動一企画運営等の実地活動（3） 7. 各プロジェクトで活動一企画運営等の実地活動（4） 8. 各プロジェクトで活動一企画運営等の実地活動（5） 9. 各プロジェクトで活動一企画運営等の実地活動（6） 10. 各プロジェクトで活動一企画運営等の実地活動（7） 11. 各プロジェクトで活動一企画運営等の実地活動（8） 12. 各プロジェクトで活動一企画運営等の実地活動（9） ※レポート2「職務体験実施報告書」提出 13. 報告・反省会Ⅰ 14. 報告・反省会Ⅱ 15. ※レポート3「職務体験総合レポート」提出、総復習・まとめ ①キャリア・チャレンジのⅠだけ、あるいはⅡだけの履修も可能である。 ②キャリア・チャレンジのⅠとⅡは、どちらから履修してもよい。 ③キャリア・チャレンジのⅠとⅡの活動内容は重複しないこと。 ④各プロジェクトには、原則として指導教員を配置する。 ⑤各プロジェクトには、学生代表を置く。 ⑥各プロジェクトには、地域の指導者及びサポーターを加えることができる。 ⑦他の授業等に支障のない時期（土日、長期休業中等）に学外活動を行うこと。 ⑧学年末休業中に活動する場合は、遡って単位認定を行うことがある。	

平成22年度 就職行事予定

月	行 事 名
4月	☆第1回就職ガイダンス（オリエンテーションにて）3年次生に進路調査表を配布
6月	☆職業適性自己理解テスト(CAREER APPROACH) 有料 1600円
	☆職業適性自己理解テストフォローガイダンス
	☆SPI対策ガイダンス
7月	☆SPI適性模擬検査(無料) 1回目
8月	☆第2回就職ガイダンス(就職対策講座)
9月	☆公務員採用試験対策講座 有料
	☆就職(進路)に関する意識調査（オリエンテーションにて）
	☆第3回就職ガイダンス（就職手帳配布、活動の流れを説明）
10月	☆第4回就職ガイダンス(卒業生による就職懇談会)
	☆第5回就職ガイダンス(就職活動におけるマナーについて)
	☆SPI適性模擬検査(無料) 2回目
	☆第6回就職ガイダンス(筆記試験対策について)
11月	☆第7回就職ガイダンス(業界研究会)リクルートスタイルとメイク
	☆第8回就職ガイダンス(業界研究会)
	☆就職実践模試(START) 有料 1400円
	☆エントリーシート攻略テスト 有料 2200円
	☆第9回就職ガイダンス(業界研究会)
12月	☆第10回就職ガイダンス(業界研究会)
	☆第11回就職ガイダンス(公務員採用試験対策)
	☆第12回就職ガイダンス(就職活動の具体策)
	☆就職対策講座（3日間）
1月	☆第13回就職ガイダンス(学内事前ガイダンス①)内定者報告会
	☆第14回就職ガイダンス(学内事前ガイダンス②)
	☆第15回就職ガイダンス(学内事前ガイダンス③)
2月	☆学内就職懇談会
3月	☆就職活動に関する個別相談

(設置)

第1条 倉敷芸術科学大学に就職に関する事項を審議するため、就職委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(委員)

第2条 委員会は、次の者をもって構成する。

- (1) 芸術研究科長
- (2) 産業科学技術研究科長
- (3) 人間文化研究科長
- (4) 芸術学部長
- (5) 産業科学技術学部長
- (6) 生命科学部長
- (7) 芸術研究科、産業科学技術研究科、各専攻から1名、人間文化研究科は2名
- (8) 芸術学部、産業科学技術学部、国際教養学部 各学科から1名
- (9) 教職・学芸員課程主任
- (10) 教務部長
- (11) 学生部長
- (12) 就職部長
- (13) インターナショナルセンター所長

(委員長等)

第3条 委員会に委員長および副委員長を置く。

2 委員長および副委員長は、委員の互選とする。

3 委員長は会務を総括し、副委員長は委員長を補佐する。

4 委員長は、審議の結果を各研究科委員会、各教授会に報告し、承認を得なければならない。

(任期)

第4条 委員の任期は、1年とし、その欠員が生じたときの補充委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(会議の招集)

第5条 委員会は、委員長が招集し、議長となる。委員長に支障があるときは、委員長の指名した副委員長が、これを代行する。

2 委員会は、必要に応じて、学部と大学院を分けて開催することができる。

3 委員会は、委員の過半数の出席をもって成立する。

(審議事項)

第6条 委員会は、次の事項について審議する。

- (1) 就職指導に関すること
- (2) 求人開拓に関すること
- (3) 就職関係資料に関すること
- (4) その他必要な事項

(委員会の事務)

第7条 委員会の事務は、就職指導課において行う。

(評価・報告)

第8条 大学協議会及び自己評価委員会の定めるところにより、年3回の評価に関わる報告を行うものとする。

(雑則)

第9条 この規程に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、別に定める。

(規程改正)

第10条 この規程の改正は、各研究科委員会、各教授会の議を経て、大学協議会において行うものとする。

附 則

- 1 この規程は、平成7年4月1日から施行する。
- 2 この改正規程は、平成11年4月1日から施行する。
- 3 この改正規程は、平成12年4月1日から施行する。
- 4 この改正規程は、平成22年4月1日から施行する。